

平成 30 年度
事業報告書

Annual report



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

Contents

法人の概要 . . . 2～10

建学の精神/教育方針/設置する学校、定員及び現員/役員・評議員/教職員数/組織構成図/
校舎敷地および建物等の概要/学生・生徒志願者数推移（全体）/学生・生徒志願者数推移（部門）/
学生・生徒進路状況

事業実績の概要及び進捗状況 . . . 11～20

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況/監査法人監査報告/安全管理への取り組み/
夏期教職員研修会（講演会）/高田学苑 第3体育館及びクラブハウス等建設事業/
教職員の健康管理体制/教職員の表彰/教職員の異動状況/
給付型奨学金・授業料等減免（助成）・短期大学入学金免除制度/高田学苑クラブチーム事業報告

教育活動の実績及び進捗状況

－高田短期大学－ . . . 21～50

時代・社会の変化に即応した取り組み
学士力向上を目指した教育課程の展開/自己点検・自己評価の取組/
主体性・協調性を育む短大生活支援/キャリア教育・キャリア支援の充実/学生募集と高大交流事業/
外国人留学生支援について
地域への社会貢献事業
高田短期大学公開講座/みえアカデミックセミナー2018/
教員免許状更新講習&Mie保育士人材バンク「takada-jc」/
仏教教育センター/育児文化研究センター/キャリア研究センター/介護福祉研究センター
他団体との連携/その他/施設設備の整備事業の実績

－高田中学校・高等学校－ . . . 51～64

命の大切さを考える教育の推進/人権教育研修の推進/キャリア教育の推進/
きめ細やかな学習指導の推進/ICT教育とアクティブラーニング対策/大学との連携事業/
部活動の推進/防災教育・危機管理教育の取り組み/学校安全・生活指導、保健計画の推進/
国際交流事業/語学研修/教職員資質向上への取り組み/教職員海外研修/
学校自己点検・学校関係者評価/生徒募集活動/施設設備の整備事業の実績

財務の概要 . . . 65～75

資金収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）
活動区分資金収支計算書の概要（全体）
事業活動収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）
平成30年度補助金一覧表
貸借対照表の概要
財産目録

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。



中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。



設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野 1 9 5
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町 2 8 4 3
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町 2 8 4 3

(平成30年5月1日現在)

高田短期大学					
学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	160名	161名	321名
キャリア育成学科	100名	200名	90名	82名	172名
〔 オフィスワークコース 〔 介護福祉コース	〔 60名 〔 40名	〔 120名 〔 80名	〔 72名 〔 18名	〔 60名 〔 22名	〔 132名 〔 40名
合計	250名	500名	250名	243名	493名

高田中・高等学校						
	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田高等学校	584名	1,752名	627名	591名	596名	1,814名

(学則定数 730名)(3ヵ年計 2,190名)

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田中学校	180名	540名	209名	202名	188名	599名

(学則定数 240名)(3ヵ年計 720名)

役員・評議員

(平成31年3月25日現在)

理事		定数10名 実数9名	
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長（学苑長） 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長	
第3号 評議員	望月 演 井村 正勝 永井 玲子 志田 行弘 岩崎 克彦	（宗）真宗高田派 光圓寺住職 井村屋グループ（株） シニア・フェロー 医療法人永井病院 理事 三重テレビ放送（株） 相談役 医療法人思源会 常務理事	

監事		定数2名 実数2名	
区分	氏名	現職等	
監事	下津 和文 紀太 允	下津醤油（株） 代表取締役会長 （一社）三重県警備業協会 監事	

評議員		定数21～25名 実数22名	
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長（学苑長） 高田短期大学 学長 高田中・高等学校 校長	
第3号 法人職員	千草 篤磨 鷲尾 敦 下村 尚 大西 正	高田短期大学 子ども学科長 高田短期大学 キャリア育成学科長 高田中・高等学校 副校長 高田中・高等学校 教頭	
第4号 功労者	望月 演 井村 正勝 岩崎 克彦 柘植 宗隆	（宗）真宗高田派 光圓寺住職 井村屋グループ（株） シニア・フェロー 医療法人思源会 常務理事 元高田高等学校教頭	
第5号 卒業者	前畑みち代 松田 英明 倉田 栄治 伊藤 博康	高田短期大学非常勤講師、育児文化研究センター客員研究員 三重中セキ販売（株） 代表取締役社長 （株）津ドライビングスクール 代表取締役 （有）平治煎餅本店 代表取締役	
第6号 本山総務	真置 和徳	（宗）真宗高田派総務	
第7号 学識経験者	坪井 俊輔 永井 玲子 落合 壽 志田 行弘 雲井 敬	弁護士 坪井法律事務所 医療法人永井病院 理事 元津市議会議員 三重テレビ放送（株） 相談役 三重交通（株） 代表取締役社長	

教職員数

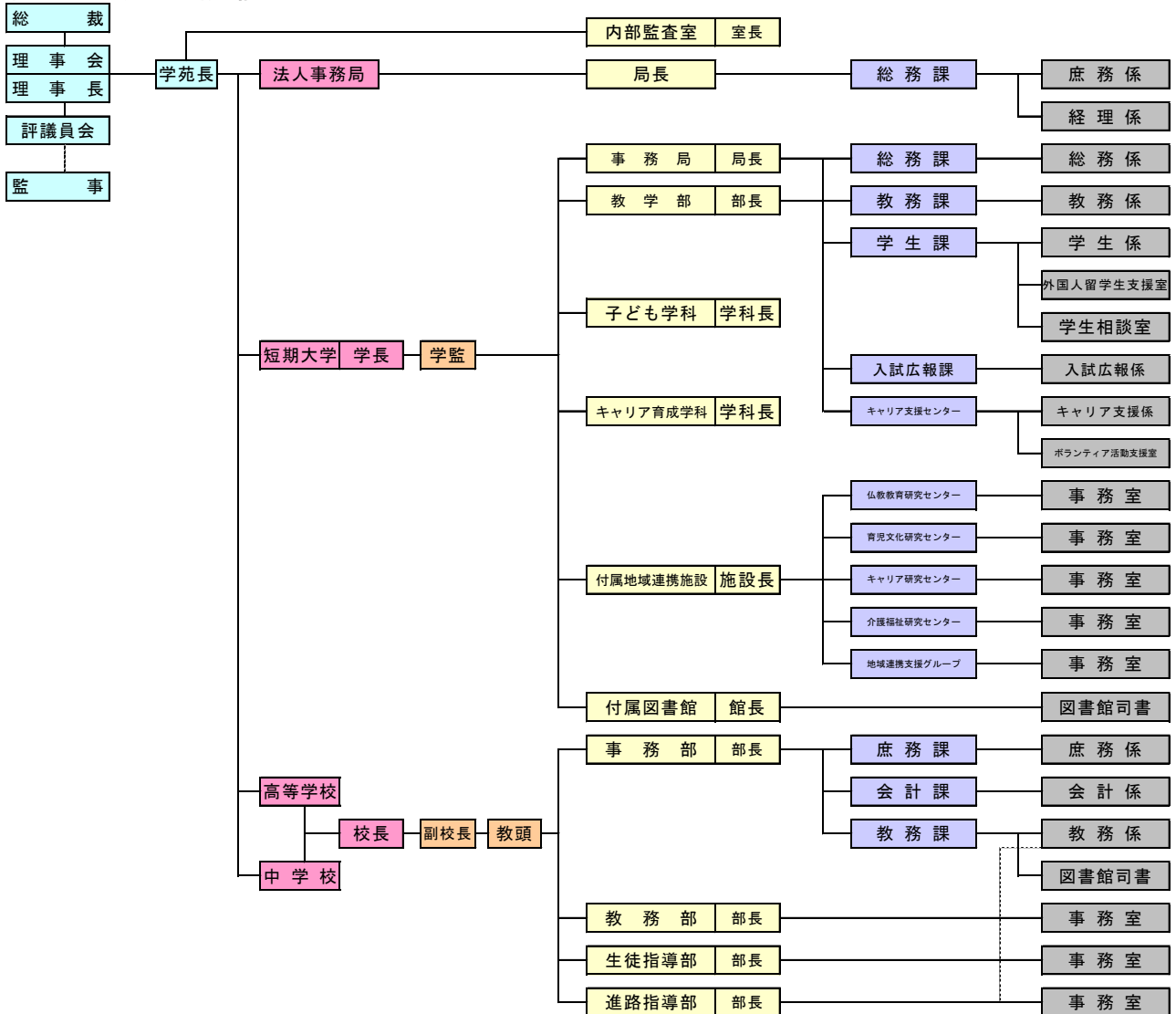
(平成30年6月10日現在)

		教 員		職 員		合 計
		本務教員	兼務教員 嘱託・非常勤 等	本務職員	兼務職員 嘱託・非常勤 等	
本 部		—	—	6名	1名	7名
短 期 大 学	子ども学科	16名	27名	13名	10名	66名
	キャリア育成学科	11名	36名	7名	5名	59名
	〔 オフィスワークコース 介護福祉コース	〔 7名 4名	〔 18名 18名	〔 6名 1名	〔 4名 1名	〔 35名 24名
高等学校		99名	35名	10名	8名	152名
中学校		29名	13名	3名	0名	45名
合 計		155名	111名	39名	24名	329名

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む。
また、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

組織構成図

高田学苑組織構成図



校舎敷地および建物等の概要

区分	専用面積㎡	計面積㎡	所在地	権利の所属	備考	
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田町他	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	49,169	49,169	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	9,875	9,875	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	89,979	89,979			
合計	108,970	108,970				
校地以外の土地	61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山林	

短期大学の部

区分	面積㎡	室数	構造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

法人本部、高等学校・中学校の部

区分	面積㎡	室数	構造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
クラブハウス	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
プール施設棟	337.58	2	鉄筋コンクリート造2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	26892.41	220		
合計	39650.03	354		

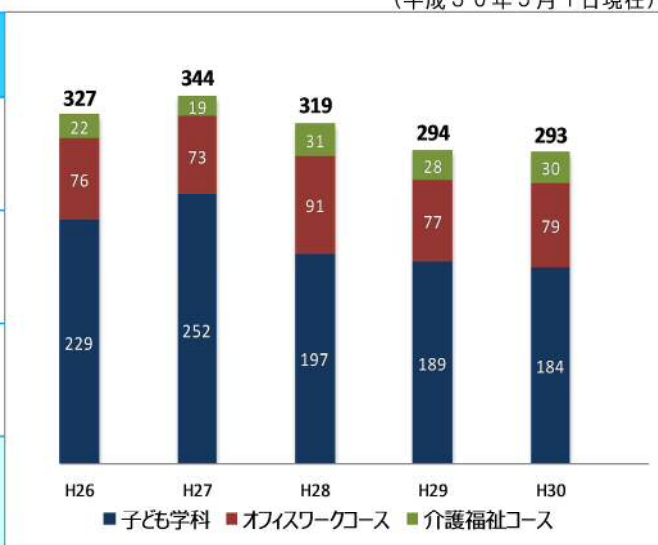
備考（その他／機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡）

学生・生徒 志願者数 推移

短期大学

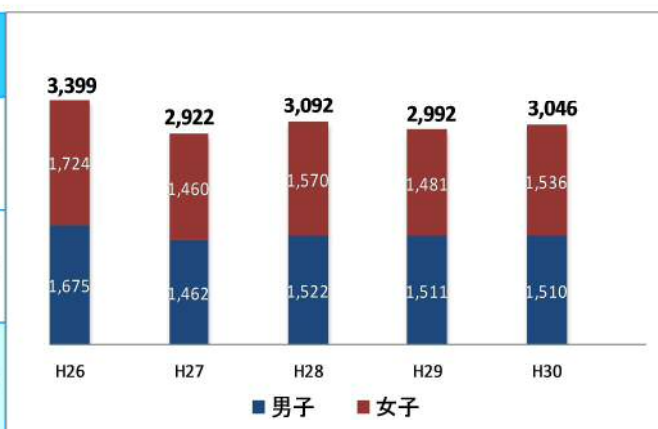
(平成30年5月1日現在)

	H26	H27	H28	H29	H30
子ども学科	229	252	197	189	184
キャリア育成学科 オフィスワーク コース	76	73	91	77	79
キャリア育成学科 介護福祉コース	22	19	31	28	30
計	327	344	319	294	293



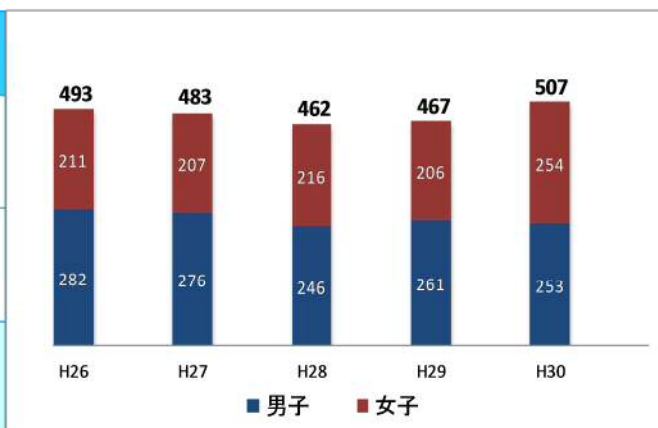
高等学校

	H26	H27	H28	H29	H30
男子	1,675	1,462	1,522	1,511	1,510
女子	1,724	1,460	1,570	1,481	1,536
計	3,399	2,922	3,092	2,992	3,046



中学校

	H26	H27	H28	H29	H30
男子	282	276	246	261	253
女子	211	207	216	206	254
計	493	483	462	467	507



学生・生徒 在籍者数 推移

短期大学

(平成30年5月1日現在)

区分	項目	H26	H27	H28	H29	H30	
子ども学科	在籍者数	314	313	313	310	321	
	収容定数	300	300	300	300	300	
	充足率	105%	104%	104%	103%	107%	
オフィスキャリア育成コース	在籍者数	119	117	130	141	132	
	収容定数	120	120	120	120	120	
	充足率	99%	98%	108%	118%	110%	
介護福祉コース キャリア育成学科	在籍者数	42	35	40	42	40	
	収容定数	80	80	80	80	80	
	充足率	53%	44%	50%	53%	50%	
計	在籍者数	475	465	483	493	493	
	収容定数	500	500	500	500	500	
	充足率	95%	93%	97%	99%	99%	

中・高等学校

(平成30年5月1日現在)

区分	項目	H26	H27	H28	H29	H30	
高等学校	在学生数	1,838	1,797	1,783	1,790	1,814	
	収容定数	1,705	1,690	1,714	1,728	1,732	
	充足率	108%	106%	104%	104%	105%	
中学校	在学生数	600	574	561	573	599	
	収容定数	600	580	560	540	540	
	充足率	100%	99%	100%	106%	111%	
計	在学生数	2,438	2,371	2,344	2,363	2,413	
	収容定数	2,305	2,270	2,274	2,268	2,272	
	充足率	106%	104%	103%	103%	106%	

学生・生徒 進路状況

卒業生・進学者・就職者数

(2019年5月1日現在)

	子ども学科	キャリア育成学科		合計	摘要
		オフィスワーク	介護福祉		
卒業生	158	60	22	240	
就職希望者	152	59	20	231	
就職決定者	152	58	20	230	
未内定者	0	1	0	1	
進学者	2	0	1	3	短大・専門学校
その他	4	1	1	6	家事従事等

過去3ヶ年の公務員試験合格者

●子ども学科

市町名	職種	現役学生			卒業生			計		
		H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
津市	保育士・幼稚園教諭	2	7	3	5	7	3	7	14	6
桑名市	保育教育職				1			1		
四日市市	保育士		1	1	2	2		2	3	1
伊勢市	保育士	1	1		1	1		2	2	
松阪市	保育士・幼稚園教諭	2	4	7	1	4		3	8	7
鈴鹿市	保育士・幼稚園教諭		1	2		2			3	2
亀山市	保育士・幼稚園教諭	1				1		1	1	
鳥羽市	保育士		1	1	2		1	2	1	2
志摩市	保育士・幼稚園教諭	3				2	5	3	2	5
東員町	保育士・幼稚園教諭		1	1			1		1	2
伊賀市	保育士・幼稚園教諭									
名張市	保育士・幼稚園教諭				1			1		
菰野町	保育士・幼稚園教諭					1			1	
多気町	保育士			1		1	1		1	2
明和町	保育士・幼稚園教諭		2			2			4	
大台町	保育士		1	3	1			1	1	3
玉城町	保育士		1		1	1	1	1	2	1
大紀町	保育士	1		1	2			3		1
弥富市	保育士			1						1
新宮町	保育士・幼稚園教諭	1						1		
その他県外	保育士・幼稚園教諭						1			1
計		11	20	21	17	24	13	28	44	34

●キャリア育成学科 オフィスワークコース

採用試験名	職種	現役学生			卒業生			計		
		H28	H29	H30	H28	H29	H30	H28	H29	H30
県・市町	行政	1		2				1		2
警察	事務	1						1		

主な就職先・配属先

(2019年5月1日現在)

子ども学科		高田幼稚園、津西幼稚園、第一・第二さくら幼稚園、ふたば幼稚園、高田保育園、ながさわ保育園、いそやま保育園、くまだ保育園、わかすぎ保育園、亀山愛児園、津こども園、藤認定こども園、ゆたか認定こども園、エスペランス四日市、みどり自由学園、市町立幼稚園・保育所 他
キャリア育成学科	オフィスワーク	井村屋グループ、(株)モリワキエンジニアリング、朝日ガスエナジー(株)、(株)ミエデンシステムソリューション、(株)日本陸送、三重トヨタ自動車(株)、(株)第三銀行、(株)百五銀行、(株)三重銀行、(株)三重平安閣、(株)ラウンドワン、(医)同心会遠山病院、イセット(株)、(公財)名古屋文化復興事業団、四日市市行政職員 他
	介護福祉	安濃聖母の家、いこいの森、かすみの里、かなしょうず園、聖愛園、洗心福祉会、高田光寿園、報徳園 他

高等学校

卒業者・進学者・就職者数

		男	女	計
三年制	I類	99	124	223
	II類	101	80	181
六年制		95	92	187
計		295	296	591

進学合格者のべ数

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		I類		II類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
四年制 大学	国立	0	0	17	0	17	65	29	94	111
	公立	0	0	8	1	9	8	7	15	24
	私立	142	0	234	32	408	286	180	466	874
文部科学省所管外		0	0	0	0	0	1	2	3	3
海外		0	0	0	0	0	0	0	0	0
短大	公立	7	0	4	0	11	0	0	0	11
	私立	42	1	3	0	46	1	0	1	47
国公立各種・専門学校		3	0	6	0	9	1	0	1	10
私立各種・専門学校		56	1	9	0	66	0	0	0	66
就職		8	0	1	0	9	1	0	1	10
合計		258	2	282	33	575	363	218	581	1156

主な進学先

(平成31年4月4日現在)

国公立大学 135名		(医学科 29)					
東京大学	11	大阪大学	6	東北大学	1	静岡大学	3
京都大学	9	北海道大学	2	富山大学	5	三重大学	33
(医学科)	0	(医学科)	0	(医学科)	2	(医学科)	17
名古屋大学	13	高知大学	2	琉球大学	1	名古屋市立大学	4
(医学科)	3	(医学科)	2	(医学科)	1	(医学科)	1
秋田大学	1	信州大学	1	熊本大学	1	神戸大学	3
(医学科)	1	(医学科)	1	(医学科)	1		
私立大学 874名		(医学科 33)					
慶應義塾大学	15	中央大学	13	関西大学	12	南山大学	8
明治大学	16	学習院大学	6	近畿大学	35	中京大学	17
早稲田大学	24	上智大学	9	同志社大学	47	名城大学	44
東京理科大学	28	立命館大学	57	愛知医科大学	7	法政大学	8
青山学院大学	13	日本大学	6	京都産業大学	9	龍谷大学	11
立教大学	6	京都薬科大学	10	神戸薬科大学	6	関西学院大学	17
愛知大学	10	東海大学	4	皇學館大学	61	鈴鹿医療科学大学	41
短期大学 58名							
高田短期大学	42	三重短期大学	11	名古屋短期大学	1	関西外国語大学短大部	1
専修学校 76名							
三重看護専門学校	6	松阪看護専門学校	3	ユマニテック医療福祉大学校	6	ユマニテック看護助産専門学校	5

事業実績の概要及び進捗状況

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況

平成30年度は高田学苑寄附行為に基づき、計5回の理事会、3回の評議員会の開催をしました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。平成30年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

理事会	第1回	平成30年 5月30日(水)	平成29年度決算(案)の承認について
	第2回	平成30年 5月30日(水)	中・高第3体育館及びクラブハウス等建設事業に係る借入金について 平成29年度決算の承認について 高田高等学校授業料等納付金助成規程の一部改正(案)について
	第3回	平成30年 9月21日(金)	高田短期大学学則の一部改正(案)について
	第4回	平成30年11月 7日(水)	平成30年度第1回収支補正予算(案)について
	第5回	平成31年 3月25日(月)	平成30年度第2回収支補正予算(案)について 平成31年度収支当初予算(案)について 高田短期大学名誉教授の称号授与について 学校法人高田学苑勤務規則の一部改正(案)について 学校法人高田学苑給与規程の一部改正(案)について 学校法人高田学苑教職員旅費規程の一部改正(案)について 高田高等学校学則の一部改正(案)について 高田中学校学則の一部改正(案)について
評議員会	定 時	平成30年 5月30日(水)	中・高第3体育館及びクラブハウス等建設事業に係る借入金について 平成29年度決算の承認について
	臨 時	平成30年11月 7日(水)	平成30年度第1回収支補正予算(案)について
	定 時	平成31年 3月25日(月)	平成30年度第2回収支補正予算(案)について 平成31年度収支当初予算(案)について
監事会	決算期	平成30年 5月25日(金)	平成29年度短期大学及び中高等学校教学監査 平成29年度事業実績報告 平成29年度決算審査関係 質疑応答
	上半期	平成30年11月 1日(水)	平成30年度短期大学及び中高等学校概要報告 平成30年度第1回補正予算書及び現預金状況 平成30年度事業実績報告(中間) 質疑応答及び実査
内部監査委員会	第1回	平成30年 5月23日(水)	平成29年度短期大学及び中高等学校教学監査 平成29年度事業実績報告 平成29年度決算概要報告 質疑応答
	第2回	平成30年10月26日(金)	平成30年度短期大学及び中高等学校概要報告 平成30年度事業実績報告(中間) 現金、預金及び有価証券の状況 学苑管理運営等について

監査法人監査報告

監査法人監査		監査法人名：五十鈴監査法人	
4月 3日（火）現金、通帳、証書の実査		12月 12日（水）平成30年11月までの取引記録	
5月 17日（木）平成29年度決算監査①		1月 9日（水）平成30年12月までの取引記録	
5月 18日（金）平成29年度決算監査②		2月 8日（金）平成31年2月までの短大取引記録	
6月 1日（金）平成29年度決算監査③		3月 4日（月）平成31年2月までの取引記録	
9月 11日（火）平成30年8月までの取引記録			

安全管理への取り組み

AED（自動対外式除細動器）設置（8台）

短期大学	
1号館 1階正面玄関	
中・高等学校	
本館 正面玄関（地域住民への対応）	西グラウンド管理棟 1 2階管理室
4号館 1階保健室	西グラウンド管理棟 2 2階管理室
第1体育館 2階体育教官室	西グラウンド厩舎棟 1階管理室前（外部）
多目的グラウンド クラブハウス横倉庫	第3体育館 1階出入口付近（内部）



地域避難所（体育館）の指定・防災倉庫の設置

高田学苑は津地域避難所として指定されています。これに伴い短期大学及び中・高等学校に防災倉庫を設置し、備蓄品の保管をしています。

生徒・教職員は勿論のこと地域住民の皆様方の、災害時における危険回避のための避難が円滑に行われるように、避難場所の周知を行っています。



非常食等の備蓄

東海地方では、近い将来東海・東南海連動型地震が発生することが危惧されています。また近年では、台風による風災や豪雨による水災も各地で頻発しており、いつ、どこで起こるか分からない災害に備え、本年度も新入生の学生生徒分の非常食等備蓄品（白い小箱）を購入しました。

この「白い小箱運動」は単なる非常食等備蓄品の保管に留まらず、詰め込み・搬入作業を行う障がい者の方々の就労支援や、非常食等備蓄品を学生生徒が卒業時に寄付する事で、海外で援助を必要としている人たちや周辺地域の方々への援助など、社会貢献活動として意義のあるものとなっています。



緊急地震速報受信システムの運用

平成22年12月より中・高等学校及び短期大学に緊急地震速報受信システムを導入しています。これは震度5弱以上の地震が発生した場合、津地区に大きな揺れが到達する前に、校内に一齐放送で知らせることにより、生徒及び教職員の安全を確保するものです。

防災訓練では実際にこのシステムを利用して、震度5弱の地震を想定した放送を流し、生徒・教職員及び地域住民の方の避難訓練に役立てています。



ポケット防災ガイドの配布

大規模な地震が発生すると予想されている昨今、地震発生時に学生生徒及び教職員がスムーズに避難できるように災害発生時の対応をマニュアル形式で記載した名刺サイズの防災ガイドを、短期大学・高等学校別に作成し、新入生と本年度採用教職員に配布しました。

近年は地震のみならず台風や大雨などによる甚大な被害も全国各地で起きていることから、地震・津波・風水害・火災それぞれに対応できるよう色分けをして記載しています。

学生生徒及び教職員はこの防災ガイドを常に携帯し、今後災害発生時の対応に役立ててくれるよう啓蒙活動にも力を入れていきます。



緊急災害時避難場所開設フローチャート

中・高等学校が津市の地域防災一次避難所に指定され、防災倉庫が設置されたことにより、高田学苑においても周辺地域の避難場所としての責務にこたえる必要があります。

緊急災害時の混乱が予想される状況において、迅速に避難所を開設するために、「緊急災害時避難場所開設フローチャート」を掲示しています。このチャートを事務職員の意識付けに役立て、緊急災害時における迅速な避難場所の開設に役立てていきたいと思ひます。



非常食等備蓄品 (白い小箱) の寄付

本学苑では、日本非常食推進機構と締結した「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」に基づき、学生・生徒が卒業時に白い小箱を寄付することで地域の方々や食糧援助を必要とする海外に援助を行う「白い小箱運動」に参加しています。

継続的に行っている寄付ですが、今年度も一身田自治会との合同防災訓練の際に、地域の方へ「白い小箱」の贈呈式を行いました。「白い小箱」は各自治体の代表者に贈呈され、防災訓練に参加して頂いた約100名の方へ寄付をしました。

また、本年度は社会福祉法人三重県厚生事業団へ白い小箱380個、津市へ417個、松阪市へ455個の寄付をしました。8月27日（月）に行われた贈呈式では、津市へは短期大学学生自治会執行委員会の学生5名、松阪市へは高田高校生徒会の生徒5名が学苑代表として訪問し各市長へ手渡しました。寄付した白い小箱はそれぞれの機関から障がい者及び児童養護施設や生活困窮者へ届けられます。



夏期教職員研修会（講演会）

教職員研修会が平成30年8月20日（月）高田高等学校本館の講堂において、教職員約200名を対象に今年も盛大に開催されました。

第一部は落語家の三代目・林家菊丸氏を迎え、「三代目 林家菊丸落語会～笑いは心の万能薬～」と題しまして、落語の講演を行い、教職員に加え、生徒保護者や一身田自治会住民の方もお招きして落語のいろはを笑いを交え、分かりやすくご教授いただきました。また、古典落語の演目の一つである「竹の水仙」を披露いただき、落語家の特徴のある語り方や表情・仕草といった表現を使って一人で複数の役をこなすことで笑いを誘い、実に楽しく日本文化と触れ合える時間となりました。



（第一部の様子）

第二部は三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」の専門員である服部亜龍氏を迎え、教職員を対象に「ハラスメントのない職場づくりのために～男女共同参画の視点から～」というテーマで講演をしていただきました。

職場における相談件数が年々増加してきているハラスメントは、実際に我々の身近な問題の一つとなっています。ハラスメントを放置しておくことで職場環境が悪化してだけでなく、生産性の低下を招き、さらには業績へも深刻な悪影響が及んでしまう場合があります。講演の中で、男女共同参画の視点から実例に基づいた様々な種類のハラスメントの説明、更にそれらを防止するために必要な視点や情報を分かりやすく解説していただき、誰もが働きやすい職場風土づくりをしていく一助となる講演となりました。



（第二部の様子）

高田学苑 第3体育館及びクラブハウス等建設事業

入札・請負業者の決定および起工式

かねてから進めておりました高田学苑高田中高等学校第3体育館等建設事業に関しまして、平成30年3月27日（火）の理事会において予定価格の決定及び入札を行い、入札の請負業者には（株）鴻池組が決定、同日契約を締結しました。

第3体育館等建設事業に先立ち、平成30年6月19日（火）11時より体育館完成予定地において起工式を執り行いました。起工式には施工業者である（株）鴻池組をはじめ、監理業務を委託する中部都市建築設計事務所、高田学苑理事・監事の方々並びに学校関係者にご出席頂きました。



第3体育館及びクラブハウス・駐輪場・歩廊の完成

本建設事業に先立ち4月から既存プール施設の解体作業からスタートし、4月末から体育館等の建設が進行となりました。建設中の7月と9月には大型の台風被害を受け、一部作業が遅延する事態となりましたが無事に全ての施設において3月28日（木）までに引き渡しを受けました。

この第3体育館は、最新の技術をもって耐震性の高い構造と優れたデザインにより、スポーツ施設としての空間が演出され、また施工精度の高い技術力をベースに、球技練習場（バスケットボール・バレーボール・バドミントンなど）、なぎなた練習場、新体操練習場、クラブハウス（隣接）を設置する多機能な体育館となっています。生徒のスポーツ関連授業、課外活動などスポーツ振興・強化の拠点となっていくと期待されます。

また、高田学苑は現在、津市の「指定緊急避難場所」として中・高第1体育館、短期大学体育館が指定されています。今後は、この体育館についても地域の災害時の拠点として人命救助に有用なAED設置は勿論のこと、安全性の高い施設としても期待されます。

<第3体育館及びクラブハウス概要>

第3体育館	
(1) 敷地面積	3026.03㎡
(2) 建物構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造地上2階建
(3) 建築面積	2,200.83㎡ (665.75坪)
(4) 延床面積	2,086.29㎡ (631.10坪)
クラブハウス	
(1) 建物構造	鉄筋コンクリート造2階建
(2) 建築面積	327.86㎡ (99.18坪)
(3) 延床面積	393.26㎡ (118.96坪)



教職員の健康管理体制

健康診断・任意検診

平成23年度より夏期休暇中に実施をしている健康診断を本年度は8月23日(木)、24日(金)、27日(月)の3日間で開催しました。学校保健安全法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた検査項目を遵守し、教職員約200名が受診しました。また、希望者に対しては前立腺がん検診、腹部エコー検診、乳がん検診(エコー・マンモグラフィ)を実施しました。今年度より三重県としては初めて配備された超音波検診車が診断に訪れ、腹部エコー検診と乳がん検診については検診車での診断を行いました。そして平成30年3月に沖縄で麻疹(はしか)患者が発生して以来、日本国内で発症者が相次いだこともあり麻疹(はしか)抗体検査を希望者に対して実施しました。検査結果は個人に直接通知され、教職員の健康管理に役立てると共に、この結果をもとに高田学苑産業医である岩崎病院に健康管理に役立つ適切な指導・助言を行っていただいております。



ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により平成27年12月から事業所に義務付けられ、メンタルヘルス不調を未然に防ぐ目的から今年度も6月1日(金)より一ヶ月間、ストレスチェックをウェブ上で実施しました。教職員は質問項目に回答し、結果は産業医の先生にデータで送られ、医師などの実施者がストレスの程度を評価し必要に応じて教職員自身のストレスへの気づきを促すとともに職場環境の分析と改善に繋げていきます。

インフルエンザ予防接種

今年度も毎年猛威をふるうインフルエンザ対策として、三重県健康管理事業センターに来ていただき、学苑内にて予防接種を12月7日(金)、12月10日(月)の2日間に分けて実施しました。前年同様に予防接種の費用は学苑が一部負担し、希望者111名が接種しました。

教職員の表彰

特別表彰	11月5日(月)
中・高等学校	教諭 1名

昭和57年に教員として着任して以来、中・高等学校における教育活動に尽力し、特に数学科において卓越した指導により、国際数学オリンピック等において優秀な成績を収めることに生徒を導いています。その経験を踏まえ、平成22年に「たかだ算数オリンピック」を立ち上げ、公開講座である「学びのひろば」において小学生を対象に授業を行い、好評を得るなど生徒募集でも成果を得ています。

平成27年度より教頭に就任、更に平成30年度からは副校長として学校運営にも貢献したことが評価され、平成30年度三重県私学大会において優良教職員表彰(知事賞)を受賞されました。こうした荣誉をたたえ、学苑長より本年度の特別表彰を受賞されました。

永年勤続表彰	
短期大学	11月12日(月) 計 4名
20年勤続	教育職員 1名 事務職員 1名
10年勤続	事務職員 2名
中・高等学校	11月 5日(月) 計21名
40年勤続	教諭 2名
30年勤続	教諭 3名 事務職員 1名
25年勤続	教諭 2名 事務職員 1名
20年勤続	教諭 1名
15年勤続	教諭 1名 事務職員 1名
10年勤続	教諭 8名 事務職員 1名

教職員の異動状況

平成30年度に採用・退職された教職員は以下のとおりです。

		採 用			退 職	
		新規採用	再雇用	任用替	再雇用	完全退職
短期大学	教授			1		
	准教授	1				1
	助教	2				1
	本務職員	1			1	
	特任教授					1
	特任講師	1				
	特任助教					
	嘱託職員	2				4
	非常勤職員	2	1			
中・高等学校	教諭		1	1	4	4
	本務職員					1
	ALT					
	講師		1		2	1
	講師嘱託	6				
	嘱託職員					
	非常勤講師	5	4			4
非常勤職員					2	

給付型奨学金・授業料等減免（助成）・短期大学入学金免除制度

高田学苑では、保護者や学生の経済的な負担を軽減する目的から、各種奨学金・授業料等減免制度を設けています。なお、これらの奨学金は給付型であり、すべて返済不要です。

○短期大学

高田短期大学奨学金	
対象	子ども学科およびキャリア育成学科オフィスワークコース学生
目的	建学の精神に照らし、経済的に学業の継続が困難と判断され、学業・人物に優れた学生に対して奨学金を給付し、学業奨励を支援する。
決定者	29名(子ども学科24名、オフィスワークコース5名)
奨学金額	4,800,000円(年額20万円19名、年額10万円10名)
高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金	
対象	キャリア育成学科介護福祉コース学生
目的	建学の精神に照らし、特に学業・人物に優れた学生で卒業後介護施設に就職する予定であるすべての学生(外国人留学生を除く)を支援する。
決定者	20名(1年生10名、2年生10名)
奨学金額	4,000,000円(一人あたり年額20万円給付)
高田短期大学奨学金私費外国人留学生授業料等減免措置	
対象	高田短期大学に在学する私費外国人留学生
目的	授業料・施設設備整備費・教育充実費等の経済的負担を減免する。
決定者	26名(減免26名(減免率50%))
奨学金額	10,400,000円

○高等学校

高田高等学校授業料等生徒納付金助成					
対象	高田高等学校に在籍する生徒の保護者				
目的	授業料等生徒納付金を無償化または減額し、保護者の経済的負担の軽減を図る。				
決定者		I・4年	II・5年	III・6年	合計
	授業料等生徒納付金が無償となる世帯	30名	35名	27名	92名
	授業料等生徒納付金が減額となる世帯	35名	29名	37名	101名
	合計	65名	64名	64名	193名
奨学金額	11,963,000円				

※授業料等生徒納付金とは授業料と教育充実費の合計です。

なお、無償または減額となる基準は、高等学校等就学支援金の基準（保護者の所得状況）に準じます。

また、高田高等学校を卒業し高田短期大学に入学する場合、入学金（28万円）が免除される入学金免除制度もあります。過去3カ年の高田高等学校からの進学者数は以下のとおりです。

	28年度入学	29年度入学	30年度入学
人数	37名	38名	37名

高田学苑 クラブチーム事業報告

2018年度 みえ高田FC 試合日程・試合結果一覧

(所属人数 22名)

大会名	対戦相手	日時	結果	備考
JFA第23回全日本U-15女子サッカー選手権大会三重県予選 準決勝	伊賀FCくノーサテライト	5月12日(土)	○3-0	
JFA第23回全日本U-15女子サッカー選手権大会三重県予選 決勝	楠クラブレディース	5月20日(日)	●1-2	プレーオフへ
JFA第23回全日本U-15女子サッカー選手権大会東海大会 プレーオフ	岐阜FCフェニックス	5月27日(日)	○6-0	東海大会へ進出
JFA第23回全日本U-15女子サッカー選手権大会東海大会 1回戦	浜松泉FC	6月9日(土)	○3-0	
JFA第23回全日本U-15女子サッカー選手権大会東海大会 2回戦	藤枝順心サッカークラブジュニアユース	6月10日(日)	●0-1	2回戦敗退
2018年度三重県女子サッカーリーグ第1節	伊勢FC Puro	7月1日(日)	●1-3	
2018年度三重県女子サッカーリーグ第2節	FCミナス	7月1日(日)	●2-4	
平成30年度東海女子U-15リーグプレ大会第1節	常葉大学付属橘中学校女子サッカー部	7月14日(土)	●0-4	
2018年度三重県女子サッカーリーグ第3節	鈴鹿グローリィ	8月5日(日)	○4-0	
2018年度三重県女子サッカーリーグ第4節	高田高校	8月5日(日)	○9-0	
平成30年度東海女子U-15リーグプレ大会第2節	岐阜FCフェニックス	8月11日(土)	○6-0	
2018年度三重県女子サッカーリーグ第5節	四日市南高校	8月19日(日)	○6-0	
2018年度三重県女子サッカーリーグ第6節	三重高校	8月25日(土)	●0-6	
平成30年度東海女子U-15リーグプレ大会第3節	NGUラブリッジ名古屋ユース	10月7日(日)	●0-6	
JFAレディース/ガールズサッカーフェスティバル 2018三重IN桑名	伊賀FCくノーサテライト	11月4日(日)	○2-0	
JFAレディース/ガールズサッカーフェスティバル 2018三重IN桑名	三重県女子U-15トレセン	11月4日(日)	●0-0 PK(4-5)	
JFAレディース/ガールズサッカーフェスティバル 2018三重IN桑名	楠クラブレディース	11月4日(日)	●1-2	
2018年度三重県女子サッカーリーグ第7節	四日市西高校	12月9日(日)	○7-0	
2018年度三重県女子サッカーリーグ 第8節	楠クラブレディース	12月16日(日)	△1-1	最終成績4位(9チーム中)
平成30年度東海女子U-15リーグプレ大会第4節	東海大学付属静岡翔洋中等部	12月27日(木)	○2-0	
平成30年度東海女子U-15リーグプレ大会第5節	名古屋フットボールクラブミナス	1月13日(日)	△0-0	
平成30年度東海女子U-15リーグプレ大会第6節	JFAアカデミー福島	2月10日(日)	●0-6	最終成績Aブロック4位(7チーム中)



2018年度 みえ高田VC Sala 試合日程・試合結果一覧

(所属人数 35名)

大会名	日時	対戦相手	結果
平成30年度全日本6人制バレーボールクラブカップ男女選手権大会 三重県予選	5月6日(日)	○ 2-0 三重教員クラブ ○ 1-2 PHYSICAL CLUB	優勝
平成30年度第68回中部日本6人制バレーボール総合男女選手権大会 三重県予選大会(一般の部)	6月3日(日)	○ 2-0 皇學館大学 ○ 2-0 志摩クラブ ○ 3-0 鈴鹿大学	優勝
平成30年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 三重県ラウンド	7月8日(日)	○ 2-0 志摩クラブ ○ 2-1 SUZUKA ○ 2-0 津商業高校	優勝
平成30年度第68回中部日本6人制バレーボール総合男女選手権大会	7月14日(土) ~16日(月)	● 2-0 新潟医療福祉大学	1回戦敗退
平成30年度全日本6人制バレーボールクラブカップ男女選手権大会	7月26日(木) ~29日(日)	<予選> ○ 2-0 広島クラッカーズ ○ 2-0 長野スピリッツ松本 <決勝トーナメント> ○ 2-0 ITVC ○ 2-0 elcasa ○ 2-0 北九州ブルースプリングス ● 2-0 福井クラブ	全国3位入賞
三重県クラブ連盟選手権大会 兼 東海クラブ選手権選考会	10月7日(日)	○ 3-1 志摩クラブ ○ 3-2 KUSUクラブ	優勝
平成30年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会 東海ブロックラウンド	10月20日(土)	● 2-1 至学館大学	1回戦敗退
東海クラブ選手権	11月25日(日)	○ 2-0 栄クラブ(静岡) ○ 2-0 Regina(岐阜) ○ 2-0 Vertex(静岡)	東海優勝



時代・社会の変化に即応した取り組み

1 学士力向上を目指した教育課程の展開

共通教養科目の充実に向けて

「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」の「共通到達目標（全学的学修成果）」に対応するため、これまで12科目の「共通教養科目」を設置していましたが、2019年度から、より幅広い教養を育むため、新たに自然科学分野及び社会科学分野の科目を追加し計14科目の設置としました。また、初年次教育の一環として開設した「スタートアップゼミナール」においては、基本的なアカデミックスキルを学習する以外に、外部講師を招いて情報モラル等に係る内容の講義等を取り入れています。さらに、学修成果の可視化を目的として「ルーブリック」評価の導入・検討を進めているところです。

学則の変更

子ども学科の授業科目について、文部科学省教育職員免許法等の改正及び厚生労働省保育士養成課程の見直しに対応するため、科目名及び内容、形態、単位数、開講時期等を変更し、理事会の決議を経て、2019年度入学生から実施することとしました。

ディプロマ・ポリシーの見直し

各大学及び短期大学は、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」「アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）」の3つの方針を策定することが、平成29年4月から義務付けられました。それに伴い、中央教育審議会大学分科会大学教育部会から、これらを策定して運用するためのガイドラインも発表されました。

本学では、義務化される以前から3つのポリシーを一体的に策定し、それに則った教育を実施してきました。今後は、学生が「ディプロマ・ポリシー」に定めた学修成果を獲得できたかどうかについて自己点検・評価を行い、教育の改革・改善に取り組むという内部質保証のシステムの確立が求められていることから、それに対応すべく、2019年度における「ディプロマ・ポリシー」を変更・修正して公表しました。

2 自己点検・自己評価の取組

外部評価委員会

7月3日（火）、昨年度に引き続き、第2回外部評価委員会を開催しました。主にカリキュラムについて協議がなされ、本学の現状と今後の課題について振り返る機会となりました。このことを踏まえ、2019年度に実施する予定の相互評価に向けて、更に自己点検・自己評価の取組を進めます。

（外部評価委員：敬称略）

東福寺 一郎（委員長：三重短期大学学長）、鈴木 紀生（真宗高田派本山専修寺教学総務）、谷口 光暁（県立久居高等学校校長）、伊藤 公昭（株式会社三重銀総研専務取締役）、佐藤 弘道（学校法人専修学園高田幼稚園園長）、栗真 恵光（社会福祉法人高田福祉事業協会高田保育園園長）、高木 章吉（社会福祉法人聖ヨゼフ会松阪理事長・県老人福祉施設協会会長）

3 主体性・協調性を育む短大生活支援

(1) 新入生宿泊研修

2年間の短大生活を有意義に過ごすため、新入生オリエンテーション行事の一環として、宿泊研修を実施しました。高田短大生として自立心、協調性を醸成するとともに、学生・教員相互の理解と親睦を深める研修目的を参加者全員が自覚し、取り組むことができました。

日 時 4月19日(木)～4月20日(金) 1泊2日

会 場 COCOPA RESORT CLUB 白山ヴィレッジゴルフコース(津市白山町川口6262)

参加者 1年生及び教員全員、関係職員

研修内容 学長講話、子ども学科「すてきな保育者になるために」「つくって、あそんで、みせて2018」、キャリア育成学科「グループワーク〈先生にインタビュー〉」、レクリエーション、パターゴルフ等



(2) 学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画実施しています。

① 学生生活相談会

日 時 4月5日(木)～4月11日(水)

場 所 2号館1Fロビー前

内 容 新年度開始直後の1週間に自治会執行部役員によるブースを設け、科目履修、部活動、アルバイト、就活等について新入生の相談に応じました。

② TJC祭(スポーツ大会)

日 時 5月12日(土) 12:00～16:00

場 所 本学体育館

内 容 新入生歓迎および学生の親睦を深めることを目的に開催しました。スポーツを行なうには最適な時期で約100名の学生が集まり、自治会役員や教職員とともに競技に参加しました。



③ ランチタイムコンサート

日 時 7月20日(金) 昼休み
場 所 本学カフェテリア内特設ステージ
内 容 吹奏楽部による演奏を行いました。

④ 第53回高短祭

日 時 10月20日(土)・21日(日) 10:00~15:00
内 容 天気に関して当日まで心配しましたが幸い大学祭の2日間は好天に恵まれ、一般来場者数は初日約800人、2日目は1000人以上の来場があり、各イベントも大いに盛り上がりました。



⑤ 新年会

日 時 平成31年1月19日(土) 10:00~15:30
場 所 本学体育館
参加者 約130名
内 容 クイズ大会、BBQ、菓子まき、抽選会が行われました。2年生にとっては学生生活最後のイベントということでたいへん盛り上がり、思い出に残る1日になりました。



⑥ 新春スペシャル抽選会

日 時 平成31年1月25日(金) 12:10~13:00
場 所 食堂カフェテリア
参加者 約200名
内 容 カフェテリアを利用すれば誰でも豪華賞品があたるチャンスがあるということで、抽選会当日はカフェテリアがいっぱいになるほど学生が集まりました。



(3) 学長と学生自治会執行役員との懇談会（第1回および第2回）

日 時 7月16日（月）14：40～

場 所 第4会議室

出席者 栗原学長、執行委員11名、教職員7名

内 容 学生からの要望を聴取し、改善策について意見交換しました。

- 1) 学生自治会活動について
- 2) 高短祭準備状況
- 3) 学生生活でのマナーについて

日 時 平成31年1月7日（月）16：20～

場 所 第4会議室

出席者 栗原学長、執行委員26名、教職員8名

内 容 学生からの要望を聴取し、改善策について意見交換しました。

- 1) 授業評価改善について（教育改善委員の任命）
- 2) 学生生活改善について



(4) 生活講座

日 時 11月19日（月）14：40～16：10

場 所 本学1号館4階 講堂

参加者 160名

内 容 テーマ① 「安全な学生生活を送るために」

講 師 三重県津警察署生活安全課 南部 尚之氏

テーマ② 「“みえ性暴力被害者支援センター よりこ” にできること」

講 師 三重県環境生活部くらし・交通安全課 中村 純子氏

4 キャリア教育・キャリア支援の充実

キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と進路ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育を推進しています。

30年度入学生 (1年生)	子ども学科	進路ガイダンス	1回実施	就職講座	7回
	キャリア育成学科				
	オフィスワークコース	プレ就職講座	2回実施	就職講座	4回
	介護福祉コース	プレ就職講座	1回実施	就職講座	4回
29年度入学生 (2年生)	子ども学科	就職講座	7回実施	公務員二次対策講座(複数)	
	キャリア育成学科				
	オフィスワークコース	就職講座	5回実施		
	介護福祉コース	就職講座	5回実施		

公務員試験対策

(1) 教養試験対策講座(受講者数)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
1年生	94人	85人	79人	90人	83人
2年生	37人	47人	50人	50人(35人受験)	46人(40人受験)

※30年度入学生(現1年生)は、9月7日から12月11日まで15回実施

※29年度入学生(現2年生)は、3月8日から8月23日まで18回実施

(2) 保育専門対策講座(4月14日～8月22日:計10回)実施(受講者45人)

(3) 数学対策講座〔高田高校教員:2年生(4月～計31回実施)、1年生(9月～計31回実施)〕

※ 公務員試験合格者数:(保育士)現役学生21人、卒業生13人(把握分のみ)

(一般行政職)オフィス1人(四日市市)、子ども1人(南伊勢町)

学生への就職支援

キャリア支援センターには、キャリアカウンセラー1名、キャリアサポーター5名(内、2名は非常勤講師兼務)が配置され、総勢8名の職員で学生の進路相談や就職活動などをきめ細かく支援しました。



卒業生への支援と早期離職の防止対策

離職した卒業生や仕事上の悩みなどで相談に来る卒業生に対して、継続して支援を行っています。また、早期離職防止対策として、平成31年2月19日(火)、就職直前講座を開催するなど、各学科コース毎に指導しました。



「キャリアカルテ」の活用等による協働型キャリア支援の推進

毎月1回(年13回)、キャリア支援委員会を開催して、各学科コースとキャリア支援センター間の教職協働を推進しました。また、就職支援システム「キャリアカルテ」を核とした「高短キャンパスネット」(Web)の活用を通して、学生、教員及び職員間の情報共有と意思の疎通を図っています。

5 学生募集と高大交流事業

(1) 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施回数は下記のとおりです。(協定校13校及び高田高等学校での実績)

- ① 出張ガイダンス(協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う)
38回(14校)
- ② 出前(模擬)授業(協定校へ出向いて出前(模擬)授業を行なう)
8回(6校)
- ③ 特別授業・授業見学・施設見学など(本学の授業に出席、本学の施設・設備見学)
15回(5校・15講座)



(2) 高大教育交流連絡協議会

第1回 7月10日(火) 14:40~16:30

実施内容: 大学入試改革と本学の入試の在り方について、教育交流事業実施報告等

第2回 平成31年2月25日(月) 14:30~16:30

実施内容: 2021年度 高田短期大学入学者選抜方法の変更について、教育交流事業
実施報告等





(3) 高田高等学校との意見交換会

5月16日(水)に、同学苑の高田高等学校の3年生担任および進路指導関係教員19名に
来学いただき、会食ならびに意見交換、質疑応答を行いました。



(4) オープンキャンパス実施結果

① 日時

第1回 6月16日(土) 13:00~16:00

第2回 7月15日(日) 13:00~16:00

②参加者数

	第1回 (6/16)	第2回 (7/15)	合計
子ども学科	130名	169名	299名
キャリア育成学科 オフィスワークコース	47名	63名	110名
キャリア育成学科 介護福祉コース	5名 留学生 2名	11名 留学生 19名	37名
計	184名	262名	446名

③実施スケジュール

13:00~13:25 全体説明会

13:30~16:00 各学科・コース説明・体験・相談



(5) 高短フェア実施結果

日 時 平成31年3月10日(日) 13:00~15:30

参加人数 113名



6 外国人留学生支援について

(1) 留学生ミーティングの実施

次の日程でこれまで2回実施しました。

第1回 5月14日(月)

第2回 7月30日(月)~8月2日(木) 個別実施

第3回 10月10日(水)

第4回 12月 7日(金)

(2) 留学生バスツアー

開催日時 8月3日(金) 9:00~17:00

参加者 本学留学生 19名

日本人学生 4名

教職員 9名

内 容 本学留学生に日本の文化をより深く理解していただくとともに、留学生同士の親睦をより深めていただくことを目的とし、伊勢神宮参拝及び鳥羽水族館見学のバスツアーを実施しました。



(3) 卒業留学生との懇談会

開催日時 平成31年1月30日(水) 11:00~12:00

参加者 卒業留学生 5名

在学留学生 20名

教職員 15名

内 容 本学を卒業した留学生を招いて、近況報告や日本で働いている中での苦労話などを聞かせていただきました。卒業留学生が社会で活躍できている話など、在学留学生にとって、非常に有意義な時間となりました。



(4) 授業内での日本語支援について

日本語TAの配置

介護福祉コース1年生の授業に日本語TAを配置しました。介護や医療の専門用語等の説明が留学生に非常に好評でした。

(5) 留学生支援室について

留学生4~5名あたりに1名の割合で事務局職員が留学生の担当者となり、担当する留学生の生活支援や相談対応など留学生が安心して日本での生活を過ごせるよう活動しています。

地域への社会貢献事業

高田短期大学公開講座

① 「地域活性化に関する取組事例と課題」

開催日 6月17日(日)

場 所 図書館グループワーク室

参加者 10名

受講料 無料

講師 キャリア育成学科 講師 岡田 一範

内 容 「経済的尺度」「社会的尺度」の観点から地域活性化・まちづくり問題の解決策を探るなど地元松阪市を取り上げ、地域活性化策の取組や課題の紹介があり、魅力ある地域の新しい取組事例を学んでいただきました。



② 「知っておきたい感染予防の基礎知識」

開催日 6月30日(土)

場 所 育児文化室

参加者 9名

受講料 無料

講師 子ども学科 准教授 長倉 里加

内 容 感染症の原因となる病原体の種類や感染経路、ノロウィルスへの対処方法、家庭での衛生管理、マスクや手袋の正しい着脱や手洗い方法について学んでいただきました。



③ 「家庭介護のワンポイント」

開催日 9月1日(土)

場 所 介護実習棟

参加者 11名

受講料 無料

講師 キャリア育成学科 准教授 福田 洋子

内 容 家庭介護についての現状や問題、対策について聴講していただいた後、ボディメカニクスと言葉がけを活用した寝返り・立ちあがりの介助、床ずれを防ぐ体位の作り方、新聞紙を再利用した使い捨て便器の作り方等を実際に体験していただき、認知症の人とのコミュニケーションの工夫として、お年寄りの感情に焦点を当てるコミュニケーション法であるバリデーシヨンの活用方法を学んでいただきました。



④ 「W i xを使ったホームページ制作」

開催日 9月2日(日)

場 所 PC教室1

参加者 24名

受講料 無料

講師 キャリア育成学科 教授 鷲尾 敦

内 容 W i xでのホームページ作成と一般のホームページ作成の違いや、W i xの特徴などの概要説明から始まり、テンプレートの一つを選び、ヘッダー・フッターのテキスト編集、メイン画像の変更、メニューデザインの変更などの制作にかかわる内容、著作権表示やS E O対策など実際のW e b制作で必要な知識について学んでいただきました。



みえアカデミックセミナー2018

三重県内にある全ての大学・短期大学・高等専門学校が有する学びと県民をつなぐ一大連携事業に公開講座の一環として、各校の特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーに参画しています。

- 日時 8月18日(土) 13:30～16:00
会場 三重県総合文化会館1F レセプションルーム
テーマ ①「障害」表記の問題 ～障害・障碍・障がい・しょうがい～
②「介護予防は日本を救うキーワード」～縮む・ゆがむ・かわく～
日程 13:00 受付開始
13:30～13:35 開会挨拶
13:35～14:35 講演① 子ども学科 教授 千草 篤磨
14:45～15:45 講演② キャリア育成学科 助教 長谷川 恭子
15:45～16:00 質疑応答

8月18日(土) 三重県総合文化会館レセプションルームにおいて「みえアカデミックセミナー2018」の本学講座を開催しました。2部構成の講座を行い、当日98名の参加がありました。



教員免許状更新講習 & Mie保育士人材バンク「takada-jc」

文部科学省の認可を受け、主に幼稚園教諭のための免許状更新講習5講座(計30時間)を開催しています。

また、昨年度より講習内容、教員配置を見直し、講習定員を40人から80人に増員し受入れ体制の見直しを行いました。

また、県内の保育士養成校の卒業生を中心に保育士資格等を有していながら、現在保育士として就業していない潜在保育士に対して、研修を提供しスキルアップを図り、子どもの視点に立った保育人材を育成し、再就職を支援しています。また、保育士資格を有し、現在働いている方へ保育指針を踏まえたスキルアップの場を教員免許状更新講習と併せて、今年度も登録された保育士等に3日間の研修会を実施しました。



仏教教育研究センター

研究会の開催

研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人のご遠忌を記念して、上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。これまでに原文と現代語訳との対照を行い、語句説明を頭註、補註形態で行ってきました。そして、昨年度に引き続き、今年度も補註の完成に向けて作業を進めました。

仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会をご提供することを目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山にて開講しました。なお、いずれも受講料は無料です。

第1回	日時	6月14日(木) 13:30~15:20	受講者	84名
	題目	国宝「御影堂・如来堂」の魅力に会う		
	講師	梅林 久高氏（高田中高等学校校長、真宗高田派正念寺住職）		
第2回	日時	10月17日(水) 13:30~15:30	定員	49名
	題目	明治維新150年ー真宗サンガの動向ー		
	講師	安藤 章仁 研究員（仏教教育研究センター研究員、高田中高等学校非常勤講師）		

仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を学んでいただきました。

日時	8月20日(月)~8月24日(金) 9:00~17:50
対象	寺族及び一般者
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）
教科講師	「仏教学」栗原 廣海 研究員（本学学長） 「仏教史」金信 昌樹 研究員（本学非常勤講師） 「真宗学」松山 智道 研究センター長（本学特任講師） 「真宗史」清水谷 正尊 研究員（本学非常勤講師） 「高田の歴史と法宝物」新 光晴研究員 （真宗高田派本山専修寺宝物館主幹）
受講者	31名（教師検定講習受検者13名、一般18名）



仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を年間10回の講座（試験日として11回目あり）で学んでいただきました。講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目（隔年で5科目）を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

日程	4月27日(金)	5月25日(金)	6月29日(金)	7月27日(金)
	9月28日(金)	10月26日(金)	11月30日(金)	12月14日(金)
	1月25日(金)	2月22日(金)	3月1日(金)	
	9時00分~17時50分（50分の昼休憩あり）			
対象	寺族および一般（真宗高田派の教学を学びたい方）			
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）	受講者	59名	
教科講師	「仏教学講読Ⅱ」清水谷 正尊研究員（本学非常勤講師） 「真宗学概説」栗原 廣海研究員（本学学長） 「真宗学講読Ⅱ」金信 昌樹研究員（本学非常勤講師） 「真宗学講読Ⅳ」北島 恒陽研究員（四日市大学非常勤講師） 「真宗史講読」栗原 直子研究員（誓元寺衆徒）			

運営委員会開催の状況

第1回	4月16日(月) 16:30~17:25	○第1回公開講座について ○基礎講座について
第2回	6月13日(水) 16:30~17:00	○基礎講座について
第3回	7月18日(水) 16:30~16:55	○基礎講座について
第4回	8月29日(水) 16:30~16:50	○基礎講座の反省について ○第2回公開講座について
第5回	11月15日(木) 16:30~17:15	○平成31年度センター年間行事予定について ○平成31年度公開講座講師について
第6回	12月20日(木) 16:30~16:55	○専門講座の講義担当者について ○平成31年度公開講座講師について
第7回	2月 7日(木) 16:30~17:00	○平成30年度の講座について ○平成31年度の講座について

育児文化研究センター

1. 地域子育て支援事業

1. 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は8年目を迎え、今年度は3名の専任スタッフ体制にボランティア支援者の助力も得て運営しました。津市を中心に多くの子育て親子の利用があり、スタッフが見守るなか、親子が、子ども同士が、親同士がゆったりとした雰囲気の中で遊び、ふれあい、交流を深める様子が見受けられました。また、昨年度に引き続き、月曜祝日の「海の日」と「秋分の日・振替休日」と「体育の日」の3回、家族の方との交流の場にもなればと「ファミリーデー」を企画しました。周知されたこともあり家族での参加が増えました。例年通り、学生の保育ボランティアとしての広場への参加は、夏休みに加えて春休みの参加もありました。利用者からはひろばでの学生との関わりが子どもや親によい刺激になるとの評価を得ました。さらに、おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」が発足し、ひろばでの保育体験だけでなく、教材づくりや保育講座などへの参加により、子育て支援への学びを深める教育の場としての活用を模索しました。



1) 「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

開催日時 月曜日・・・0、1歳児 木曜日・・・2歳児以上 10:00~12:00
場 所 育児文化室(1号館2F) 参加対象 未就園児とその保護者

※平成30年度4月から3月には、月曜日46回、木曜日47回の計93回ひろばを開設し、175組の親子、子どもと保護者を合わせて延べ2,811名の利用がありました。



2) 子育て講座

ひろば開催日（4・3月を除く月1回）にセンター研究員を講師に予約制の子育て講座を下記のように開催しました。平成30年度は10月講座が担当講師の体調不良により急遽中止となったため、9回の講座を開催し、のべ133組の参加がありました。

3) ひろば関係研修会

ひろば関係者研修会 「おやこひろば たかたんの取り組みについて」

ひろばスタッフ3名より学外研修の報告を受け、今後のたかたんの取り組みについて質疑応答と意見交換を参加者間で行いました。

日 時 平成31年1月17日（木） 12:10～13:30

場 所 1号館第4会議室

参加者 本学教職員・ひろばスタッフ・地域ボランティア 計13名

なお、例年開催している「乳幼児の救急蘇生について」の研修会は8月23日（木）に開催予定であったが、台風第20号の接近に伴い中止となりました。

4) 「おやこひろば たかたん」HP

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後の案内を掲載しました。「活動紹介」はブログ形式で写真とともに、毎ひろば開催日にアップをしました。

2. 子育て相談

地域への子育て支援の事業として、育児に関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談を予約制で行っています。チラシ配布により広報に努めました。相談件数は4月～3月までに発達相談7件、子育て2件、健康1件でありました。

相談内容	担当者	平成30年度基本相談日
発達相談	千草 篤磨	第1水曜日 ①10時 ②11時
子どもの食	鷺見 裕子	第3木曜日 ①13時 ②14時
子どもの健康	長倉 里加	第2月曜日 ①12時半 ②13時半
子育て・教育	青木 信子	第4木曜日 13時

3. 地域啓発事業 共催講演会

今年度は介護福祉研究センター主催の公開講座へ共催団体として、保育関係への広報や運営、託児業務に携わりました。

テ ー マ 「子どもの障害と発達相談」

講 師 小淵 隆司 氏（北海道教育大学准教授）

日 時 平成31年2月16日（土） 13:00～15:10

場 所 高田短期大学 講堂

参加対象者 保育、教育、福祉関係者及び学生

参加人数 福祉・保育関係者他82名、全国障害者問題研究会関係者68名

II. 研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

1. 定例研究会（年3回予定）

- (1)第1回 第50回定例研究会 7月2日(火) 16:30~18:30 参加者20名
 1)研究報告 山口 昌澄 研究員
 「地域子育て支援ニーズについての一考察ーある地方都市の調査結果からー」
 2)討論テーマ 「保育はサービスか？」
 3)グループ研究会について
- (2)第2回 第51回定例研究会 11月1日(木) 16:30~18:30 参加者15名
 1)研究報告 金森 まさ子 研究員 「絵本を通じた教育活動の取り組み」
 2)グループワーク 「読み聞かせの魅力とは」「園は何ができるか」
 3)グループ研究会について
- (3)第3回 第52回定例研究会 平成31年2月13日(水) 16:30~18:30
 参加者13名
 1)研究報告 前畑 みち代 研究員
 「保育の基本と人とのかかわり
 ー私の保育経験を通してこれからの保育に託したいことー」
 2)グループ研究会について

2. グループ研究会

各グループ研究会は、主題に沿って子育て支援や保育・幼児教育、育児の現状を捉えながら、幅広い専門領域の研究者からの情報提供も盛り込み、どの研究会も活発な研究活動が行われた。今年度はグループ研究①とグループ研究③が研究成果を「高田短期大学育児文化研究第14号」に報告しました。

- | | | |
|----------------------------|------|------|
| (1)グループ研究①「子育て支援の現状と課題」 | 8回開催 | (7名) |
| (2)グループ研究②「子育て支援のひろばについて」 | 6回開催 | (7名) |
| (3)グループ研究③「子どもの基本的生活習慣と育児」 | 8回開催 | (8名) |

III. 学生支援事業

1. 地域保育関連の学生ボランティア活動支援「子育て応援隊活動」

ボランティア支援センターとは平成24年度からは連携を取りながら活動を行ってきました。園行事、子育て支援、託児、イベント等の活動に56件、のべ283名の学生が参加しました。今年度のボランティアの参加件数は前年度のほぼ2倍の件数となり、多くの現場から募集が寄せられた。学生は保育・子育てに関わる地域でのボランティア活動を通して貴重な体験と学びを得ることが出来ました。育児文化研究センターとしては事前指導を行い、ボランティア活動を行うにあたっての心構えや準備等の指導、事後指導として学びの振り返りや共有をしました。



2. みえこどもの城連携協定による事業支援

昨年度に引き続き、本学と三重こどもわかもの育成財団との連携協定に関わる学生によるイベント開催の企画立案、実施での支援を行いました。「みんな集まれ!たかたん あそびひろば」では2回の実施で、のべ学生116名、教員7名が参加しました。ゼミでの学習成果を親子対象に発表、実演する貴重な機会となりました。

1) 「みんな集まれ！たかたん あそびひろば」

12月22日(土) 11:00～15:00 みえこどもの城 2F 舞台スペース

参加：学生101名、教員6名

2) 「親子で作ろう！ダンボールカホン」

平成31年1月27日(日) みえこどもの城 2F 舞台スペース

参加：学生12名、教員1名、特別講師1名

3. おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

おやこひろばの保育体験だけでなく、教材づくりやイベント企画準備などにかかわる子育て支援活動のボランティアサークルを今年度に立ち上げ、夏祭り行事準備・実践やメダル作り、2回の保育実践講座などで17名の学生が活動しました。

IV. 広報物及び研究成果の発行

1. センターたより「いくぶん」第23号

「定例研究会50回の足跡」「おやこひろば応援サークル“たんたんクラブ”結成！」の2つの記念記事をはじめ「おやこひろば たかたん」や子育て応援隊、新入会研究員の紹介を掲載し10月に発行しました。

2. 育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」第14号 (平成31年3月発行)

研究論文5本、調査報告1本、実践報告3本と定例研究会での研究報告要旨、3つのグループ研究会の活動報告等を掲載し3月に発行しました。

3. 子育て情報発信

「情報誌きらきら」(隔月発刊:年6回)の育文センター担当頁「子育てライフ応援隊！一緒に子育てをはじめましょ」への子育て情報を掲載。

V. 地域連携事業

1. 津市つながりひろば運営委員会

	日 時	内 容
第1回	7月26日(木) 18:00～21:00	今年度の事業詳細確認
第2回	12月 6日(木) 18:00～21:00	実施事業企画について
第3回	平成31年3月14日(木) 18:00～21:00	振り返りと次年度について

2. みえ次世代育成応援ネットワーク

(1)関係会議

	日 時	内 容
第1回運営委員会	5月22日(火) 15:00～17:00	総会、今年度取り組み事業等
第2回運営委員会	平成31年2月14日(木) 15:00～17:00	次年度の運営体制と取り組み
運営委員コア会議	12月 5日(水) 18:00～19:00	2部会協議事項の共有

第1回ネットワーク第II部会	7月17日(火) 17:30~19:30	ネットワーク事業
第2回ネットワーク第II部会	8月17日(金) 17:30~19:30	わくわくフェスタ
第3回ネットワーク第II部会	10月16日(火) 17:30~19:30	次年度取り組み

(2) みえ次世代育成応援ネットワーク会員総会

9月1日(土) 14:00~17:00 県庁講堂 参加: 教員2名
子どもたちの未来を応援する集い、総会、会員交流会

(3) 子育て応援! わくわくフェスタ

11月23日(金) 14:00~16:00 輪中ドーム

(4) 子ども条例講演会

平成31年3月17日(日) 13:30~16:00 人権センター

(5) 「みえの子ども応援プロジェクト」第10回ありがとうの一行詩コンクール参加

3. みえこどもの城連携協定による事業

(1) 第1回「たかたん あそびひろば」12月22日(土) 11:00~15:00

(2) 第2回「たかたん あそびひろば」平成31年1月27日(日) 13:00~15:00

(3) 30周年記念事業 平成31年3月9日(土) 13:30~15:30

(4) 第1回臨時評議員会 平成31年3月26日(火) 14:00~15:30

4. 津財務事務所との連携による講座開催

津財務事務所職員が講師として「社会保障とライフプラン」のミニ講座を「おやこひろば たかたん」内で利用保護者に対して開催しました。

12月3日(月) 10:30~11:45 参加者20組

VI. 津市委託事業

1. 津市ひろば関係者交流会事業(つながりひろば): 年4回開催

津市において子育て支援に関わっている、行政、保健センター、社協、保育や子育て支援施設の関係者やボランティア、民生・児童委員等多職種の子育て関係者の交流やネットワークづくりを目的に情報共有と相互理解の交流会を年4回開催しました。

(1) 第1回 5月31日(木) 18:30~20:30

高田短期大学カフェテリア 参加者39名

「ソフリエさんから受け継ぐ大切なこと」

(2) 第2回 10月18日(木) 18:30~20:30

久居保健センター 参加者27名

「リズム遊び体験と「お母さんを支える方法」でグループ交流」

(3) 第3回 12月13日(木) 18:30~20:30

津市たるみ子育て交流館 参加者34名

「津市の新たな子育て支援拠点の紹介と今後の活用」について意見交流

(4) 第4回 平成31年2月21日(木) 18:30~20:30

津市みどりの森こども園 参加者28名

新認定こども園見学とボランティア子育て支援「にこちゃんクラブ」の活動

2. 津市子育て支援者事業（親支援の援助技術）：年2回開催

子育て支援者の子育て、親支援のための援助力を向上の研修会を2回開催しました。

(1) 第1回 8月2日(木) 18:30~20:30

津市雲出市民センター 参加者30名

「困りごとを共有しづらい親への関わり方」 講師：栗田 弘二氏

(こころの医療センター)

(2) 第2回 平成31年1月31日(木) 18:30~20:30

高田短期大学 参加者27名

「音楽療法の体験を活かしてみよう」 講師：米倉 恵里氏(県いなば園)

3. 津市親支援事業（子どもとの愛着形成、お母さんのリラクゼーション）：年4回開催

父親と子どもの愛着形成と母親のリラクゼーションを目的に、幼児と乳児対象に分けて父親教室を開催し、母親同士が交流できるママサロンを設定しました。

(1) 第1・2回 7月22日(日) 10:00~11:30 高田短期大学

○パパ教室幼児コース「体を動かしてお父さんと遊ぼう」

参加親子12組・37名

講師：堀本 浩史氏(すばる児童館)

○ママサロン 参加者6名

(2) 第3・4回 10月21日(日) 10:00~11:30 津市たるみ子育て交流館

○パパ教室 乳児コース「お父さんとベビーマッサージ」

参加親子10組・20名

講師：ヤナセクリニック

○ママサロン 参加者9名

4. ホットひろば事業：年3回開催

乳幼児を子育て中の親を対象として、ほんのひととき子どもから離れてホットできる時間に、子育て中の親同士が交流できる場、子育てママの「ホットひろば」を提供と託児を3回行いました。 講師：橋本 景子(高田短期大学)

(1) 第1回 8月29日(水) 10:00~12:00

高田短期大学

参加者10名 託児15名

(2) 第2回 11月17日(土) 10:00~12:00

高田短期大学

参加者7名 託児7名

(3) 第3回 平成31年2月20日(水) 10:00~12:00

津市たるみ子育て交流館 参加者8名 託児9名

キャリア研究センター

1. 地域連携事業

(1) 「津市包括的協力連携協定」連携事業

① 一身田寺内町来訪者調査の実施

オフィスワークコース中畑ゼミ1年生の後期において、一身田寺内町来訪者調査を実施しました。10月31日(水)に「一身田寺内町ほっとガイド会」のガイドに案内してもらい、一身田寺内町の歴史や見どころなど教えていただきました。その後、アンケート票の作成を進め、11月18日(日)の寺内町まつりにおいて、アンケート調査を実施し、12月12日(水)に一身田寺内町にて平日のアンケート調査を行い、また、高田本山の行事、お七夜にあたる平成31年1月



寺内町まつりでの調査の様子

12日（土）にもアンケート調査を実施しました。他、高田会館、ぼんぼり、一身田寺内町の館にアンケート票を配置させていただき、回収に協力していただきました。

平成31年4月中に集計・分析を完了させ、津市、一身田商工会振興会等に向けて報告会を開催する予定です。

② 一身田寺内町のWebサイトを構築

インターネット上の様々なサービスをうまく活用し、仕事や学業、生活に活かす方法を学ぶ科目「ネットワーク活用（鷲尾研究員担当科目）」では、一身田寺内町の商店街に焦点を当て、今年度も4店舗のWebサイトを構築しました。

まず、5月10日（木）の授業において、一身田商工振興会会長と、オカモトヤ、杉甚商店の各店主の方々が来学し、店主の方々と学生たちとで、構築のためのキックオフミーティングを行うことからスタートしました。店主の方々がお店の説明をした後、学生が興味を示したお店に分かれ、店主を中心に制作のためのグループミーティングを行いました。

その後は、学生たちは、6月からの制作に向けて、手分けして店舗に出向き協働で取材活動を行いました。取材情報や写真は、本学で導入したLMSシステムのmanabaとGoogleドライブを使ってグループ内で共有を行いました。6月から授業で制作が始まりました。一人ひとりが課題としてCMSクラウドサービスのWixを使って各お店のWebサイトを構築しました。構築したWebサイトは、GoogleフォームによるWebアンケートを使って学生及び店主の方々から評価を頂き、さらに修正を加え完成に至りました。

学生たちの作成したサイトは、次のURLより閲覧することができます。

ネットワーク活用の店舗サイト

<http://isshinden.wixsite.com/work2018>



店主によるお店の紹介の様子



各店舗グループでのミーティングの様子

(2) 津市中央公民館との共催事業

① シニアパソコン教室

平成21年度から続いているシニアパソコン教室は、平成30年度は3回開催しました。1回目は、全体の講師役を本学オフィスワークコースの2年生11名が担い、1年生10名とボランティア団体「情報ボランティアみえ(じょぼみ)」が、援助役として関わりました。2回目は、本学オフィスワークコースの1年生10名が講師役を務め、情報ボランティアみえと「パソコン指導ボランティア養成講座」受講者が援助役を務めました。3回目は、「パソコン指導ボランティア養成講座」の受講生7名が講座学習の一環として講師役を担当し、学生9名と情報ボランティア9名が援助役につきました。

- | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1回目 6月23日(日) 受講者21名
スタッフ33名:学生21名、じょぼみ10名、
研究員1名、中央公民館職員1名 |
| 2回目 12月16日(日) 受講者29名
スタッフ30名:学生10名、じょぼみ10名、
パソコン指導ボランティア養成講座受講生8名、
研究員1名、中央公民館職員1名 |
| 3回目 平成31年3月2日(日) 受講者30名
スタッフ名:学生9名、じょぼみ9名、
パソコン指導ボランティア養成講座受講生7名
研究員1名、中央公民館職員1名 |

② パソコン指導ボランティア養成講座

今年度で6年目となるパソコン指導ボランティア養成講座は、津市中央公民館と本学で計6回開催しました(右表)。初回11月17日(土)10名の参加があり、2回目は、シニアパソコン教室での援助者体験、5回目にはリハーサル、6回目はシニアパソコン教室で講師役を体験し、修了証を7名の方が手にしました。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1回目 講座概要、パソコン指導とボランティア
11月17日(土)10:00~12:00 於:中央公民館
受講生10名、じょぼみスタッフ6名、研究員1名 |
| 2回目 パソコン教室援助者体験 受講生8名
12月16日(日)9:30~15:30 於:高田短期大学 |
| 3回目 インターネット活用、指導案作成方法
受講生8名 於:高田短期大学
平成31年1月20日(日)10:00~12:00 |
| 4回目 講座の準備、指導案作成 受講生6名
平成31年2月16日(土)10:00~12:00
於:中央公民館 |
| 5回目 講師体験のリハーサル 受講生7名
平成31年2月24日(日)13:30~16:00
於:高田短期大学 |
| 6回目 パソコン教室講師体験 受講生7名
平成31年3月2日(土)9:30~15:30
於:高田短期大学 |

③ 子どもプログラミング教室

夏休み子どもプログラミング教室を8月11日(土)の山の日、に、本学PC教室で開催しました。この講座は、鷲尾研究員のゼミ生であるオフィスワークコース2年生の発案、企画によるものです。発案者である学生が、卒業研究のテーマを検討する中で、2020年度から始まる小学校でのプログラミング教育必修化に興味をもって調べているうちに、自身が子どもの指導をすることでその意義を理解できるのではないかと考え、子どものプログラミング教育で広く使われているScratchを急遽自学自習しました。教室企画から募集チラシや指導案を作成しながら、スタッフの教育まで行って準備を進めました。スタッフは発案者である学生の友人5名と情報ボランティアみえの皆さん。参加者は小学校3年生から6年生までの15名でした。

午前の最初は、基本の動きと制御のプログラミングを指導。その後は、オリジナルの水族館プログラム、午後からはカエルの輪唱プログラムで、いずれも基本を学んだあとヒントカードを見ながら、子どもたちの自由な発想でオリジナル作品を作りました。

子どもたちはパソコンに集中しすぎるので、合間はパソコンを見ないようにとスタッフ学生と腕相撲をしたり、講師卓の機械で遊んだり、先生にぶら下がったり、とにかく元気な子どもたちでした。最後にグループごとに発表を行い、全体の前でグループ代表者4名が発表しました。

④ スタッフ学習会支援

毎月、定期学習会を18時30分~21時の時間帯に本学で開催しました。講座の準備や打合せの他、コンピュータやネットワークに関する新しい情報や普段の疑問について、互いに教え合います。

る形で学習を進めています。

(3) 若手社員の採用・定着・育成のためのワークショップ開催

平成30年9月5日(水) 13時30分から16時まで、高田短期大学カフェテリア(1F)にて、百五銀行・百五総合研究所との連携事業、「若手社員の採用・定着・育成のためのワークショップ」を開催し、企業14社15名に参加いただき、オフィスワークコースの学生10名とワークショップを行いました。

最初に、百五総合研究所経営コンサルティング部長である大地勉氏に講演「採用難時代の人材戦略を考える」を頂きました。その後、学生・企業の方混合の4つのグループに分かれ、就職活動⇔採用活動、就職後の心配⇔育成と定着の課題などのテーマを中心に、グループディスカッションを行いました。

学生には企業の方がどのようなことを考えて採用活動、人材育成を行っているのかを直に聞くことができる貴重な機会となりました。



大地勉氏による講演



グループディスカッションの様子



まとめの発表

2. 就業支援セミナー

(1) 「PowerPoint入門講座」を実施

地域連携事業高田短期大学キャリア研究センター・百五銀行・百五総合研究所共催による就労支援講座「PowerPoint入門講座」を実施しました。

本講座は、8月7日（火）午後13時30分から16時30分まで、本学PC1ルームで開催し、20名の方にご参加頂きました。

講師はキャリア育成学科オフィスワークコース川喜田多佳子講師と、センター研究員の寺家尚美氏がアシスタントをつとめました。

講座では、Wordとの連携や効果的な図解表現など、PowerPointの基本操作を学びながら、聞き手に素早く確実に伝達し、記憶にとどめ、

集中力を持続させるためのスライドのデザイン方法を演習していただきました。また、オフィスワークコースの学生5名が講座運営のボランティアを務めました。



講師とボランティア学生紹介



受講の様子



ボランティア学生によるサポートの様子

(2) 「クレーム対応基礎講座」を実施

8月8日(水)に長谷川聡子先生による「クレーム対応基礎講座」を、開催いたしました。

クレームというと重たい話と思われそうですが、長谷川先生の体験を織り交ぜて、実践的でありながら笑い声の絶えない講座となりました。

経営者の方が社員の顧客対応について感じている課題を質問されたり、参加した本学2年生の学生から就職内定先で仕事にすぐに役立つとの声があったりと、参加者のニーズに応える内容でした。



講座の様子 1



講座の様子 2

(3) 「知って得するWord・Excelの裏技」講座開催

平成31年2月26日(火)、本学3号館PC教室にて、「業務効率が驚くほど上がる 知って得するWord・Excelの裏技」の講座を開催し、参加者は35名でした。

同タイトルのセミナーは、毎回多くの参加申し込みをいただいています。4回目となる今年度もキャンセル待ちが出るほどで、地元企業からの講座に対するニーズの高さがうかがえます。今回は、業務効率が大きく上がる時短ワザ、知っているると便利な機能を身につけていただくという内容で実施しました。普段からWord、Excelで資料作成を行っているもののうまくいかないと感じている方が、すぐに実践でき、業務の効率化に役立ててもらおうことを目的としました。

寺家尚美研究員が講師を、川喜田多佳子研究員がティーチングアシスタントを務めました。また、キャリア育成学科オフィスワークコースの学生4名がボランティアとしてアシスタントに参加しました。本講座用に作成したオリジナルテキストを使用し、Wordは文書のレイアウトを整える方法、Excelは大きな表を作成、編集する際の時短ワザやいろいろなデータの集計方法を紹介しました。昨年度関数は難しいとの声があったため、今回はあえて関数を使用しない内容としたことを説明しました。

セミナー終了後アンケートを実施し、参加35名中34名から回答を得ました。講座内容は経営、実務に役立つものであったかという質問には、29人(85%)が役に立つ、5人(15%)がまあ役に立つという結果でした。

関数の講座など今後希望する内容をアンケートに入れていただくよう依頼したところ、13名の参加者から関数の勉強会に参加したいとの意見が、また、パワーポイントの講座に対する希望も6名からあげられました。地元企業で働く方々の実務に役立つ講座を今後も開催していきたいと考えます。





講座の様子



ボランティア学生にとっても
良い経験に

(4) Access活用講座の開催

平成31年2月14日(木)に、高田短期大学のPC教室にて、Access活用講座「データを活用するためのTIPS(秘訣)」を開催しました。20名定員で22名の参加で、学生ボランティア4名がTAとして参加しました。講座は間に2回休憩を挟み、13時30分から16時30分までの3時間コースで、右表の通りでした。

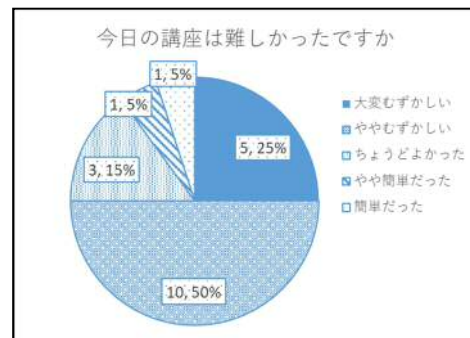
受講者に最初、経験度を訪ねたところ、初めてAccessに触る人が7、8人いました。以前の入門講座を受講した方は2名いました。SQLでデータベースを扱った経験があるという方もおられ、受講者のレベル幅がとても大きい中での講座でした。そのため、当初話だけのつもりだったオブジェクトの説明を、初心者も考慮して一緒に操作しながら体験してもらいました。時間的に最後の方はできなくなりましたが、伝えたい内容をしっかり伝えることができました。

下図に示すように大変難しいが5名、やや難しいが10名で、75%が難しく感じていました。活用講座でしたが、初心者が多く含まれていたこと、活用編としたが、時間を3時間に絞ったことが原因でした。しかしながら、感想を見ると難しいながらも充実した様子が窺えました。また、Access講座にどのような内容や形式を求めているかの意見がありました。

講座の内容
Accessの構造
Accessオブジェクトの閲覧
テーブル設計のポイント
エンティティの抽出、正規化、コード設計
リレーションシップの設定
選択クエリ
データベースの基本操作
計算クエリ
集計クエリ
外部結合のあるクエリ
アクションクエリ
テーブル作成クエリ
更新クエリ
追加クエリ
削除クエリ
事例研究(設計問題)



講座の様子



アンケート結果

センター事業

1. 「高短One dayセミナー」実施

地域の方を対象としたキャリア形成の支援、研修および交流活動等に関する事業の一環として、高校2年生を対象とし、体験学習を主体とした講座の受講及び他校の高校生・本学在學生との交流を通じ、進路選択や自らのキャリアについて考えるきっかけづくりにしてもらうことを目的として実施しました。

昨年度参加者数が少なかったことから、チラシのレイアウトを変更するとともに、高校訪問で周知できなかった高校に対してチラシを郵送するなど、参加者増に取り組みました。

野呂主任研究員と川喜田研究員がそれぞれ講師を務め、望ましいコミュニケーションのあり方やチームで協力することの大切さについて、ゲームやグループワークを主体とした体験型の2講座を行いました。また、お菓子パーティーと称して和やかな雰囲気の中で、参加高校生が在學生から学生生活等について話を聞く機会を設けました。

講座1では、アイスブレイクとして、参加者が互いに共通点を見つけるゲームに取り組んだ後、言葉で伝えることの難しさやコミュニケーションで気をつけるポイントを体験するペアワークを行いました。講座2では、タブレットPCを使い、インターネットの効率的な情報検索方法を学んだ後、東京を一日で楽しむための旅程をグループワークで計画し発表をしました。

5回目となった今回も、参加した高校生からは非常に好評でした。



講座1の様子



講座2の様子

研究紀要、情報誌等の発行

1. 「キャリア研究センター紀要・年報」第5号発行（平成31年3月31日）

人材育成、雇用・労働問題、地域社会等に関する創造的な研究・調査活動を促進し、その成果を広く学内外に問うことを目的とする「キャリア研究センター紀要・年報」の第5号を発刊しました。

本年度は運営委員（中畑センター長、野呂主任研究員、鷲尾研究員、岡田研究員）が編集委員を兼務し、その責任において編集しました。

掲載内容は、紀要（センター事業に関連する研究論文等、各分野の総論）と、年報（キャリア研究センター実施事業、オフィスワークコースの活動紹介、研究員紹介）となっています。

なお、配布先及び配付部数は、学生の就職先60部、社会体験実習先60部、各高等学校70部、保護者（キャリア育成学科1・2年）160部、本学教員（常勤・非常勤）、連携先とし、予備冊数を加えた500部を発刊しました。

介護福祉研究センター

会議関係

運営委員会を10回開催しさまざまなテーマを検討しました。

センター会議

前期センター会議： 6月24日（日）参加者：8名（於）介護福祉研究センター

- ・平成29年度事業報告
- ・平成30年度事業計画
- ・「高田短期大学介護・福祉研究」投稿規定の一部改正
- ・新規研究員の紹介 川喜田 多佳子（本学教員）、服部 優子（非常勤講師）、松枝 桂子（非常勤講師）、水野 友美（非常勤講師）

後期センター会議： 12月15日（土）参加者：9名（於）介護福祉研究センター

- ・平成30年度事業経過報告、
- ・平成31年度事業計画（案）
- ・平成31年度予算要求（案）
- ・新規研究員の紹介 中嶋 麻衣（学識経験者）



研究活動

定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動していただいている方々を研究員に招き現在41名の研究員が在籍しています。毎月一回の定例研究会を開催し各分野の情報交換を行い、地域に還元できるように学びあいました。次のとおりです。

- テーマ：「認知症の絆」～ユマニチュード方法～
発表者：高山 文博研究員、参加者：12名
- テーマ：民生委員・児童委員制度100年の歩みの中での新任民生委員の活動実践報告
発表者：中川 千代研究員、参加者：11名
- テーマ：母子生活支援施設入所世帯の所得状況について
発表者：武藤 敦士研究員、参加者：9名
- テーマ：大正15年の十勝岳噴火における高田派僧侶の地域福祉活動
発表者：千草 篤磨研究員、参加者：11名
- テーマ：社会福祉法人天年会の事業について
発表者：徳山 貴英研究員、参加者：10名
- テーマ：教職を目指す学生の「介護等体験」に対する施設からの指導や助言～社会福祉施設・特別支援学校の実習担当者の回答より～
発表者：藤重 育子研究員、参加者：10名
- テーマ：二人の女性仏教徒の福祉活動－法均尼と九条武子－
発表者：金信 昌樹研究員、参加者：10名
- テーマ：卒業生の私から伝えたいこと
発表者：清水 友里恵（H18年度入学1期生）、参加者：12名

実施事業

介護福祉セミナー

○第1回 6月24日(日)

テーマ:「機能を活かした起居動作と移乗動作介助」

講師:宮川 智行 研究員

参加者:27名



○第2回 12月15日(土)

テーマ:「音楽を取り入れた介護予防」

講師:長谷川 恭子 研究員

参加者:51名



白子公民館の高齢者と学生の交流事業

さまざまなテーマで7回の交流をもちました。

第1回	6月 2日(土)	高齢者: 15名	学生: 18名	研究員: 2名
第2回	7月 7日(土)	高齢者: 11名	学生: 14名	研究員: 1名
第3回	9月 1日(土)	高齢者: 7名	学生: 8名	研究員: 2名
第4回	10月13日(土)	高齢者: 11名	学生: 7名	研究員: 1名
第5回	11月 3日(土)	高齢者: 6名	学生: 9名	研究員: 2名
第6回	12月 1日(土)	高齢者: 40名	学生: 4名	
第7回	平成31年1月5日(土)	高齢者: 11名	学生: 15名	研究員: 3名



地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動

4月8日(日) 津市桜橋一丁目老人会での高齢者サロン

高齢者: 6名 留学生: 4名 研究員: 中川 千代

内容: ネパールの地理や生活事情について学習し、ネパール留学生と地域高齢者が交流しました。ネパールの民族衣装の説明やダンスを行い、一緒に踊りました。



9月24日(月) 一身田桜町にここサロン(講師派遣)

高齢者参加者: 24名 中川 千代 研究員

内容: 「ふじの山」の指体操、ゲゲゲの鬼太郎ゲーム、スポンジタワー、ハネ馬競争を楽しんでいただきました。

鈴の音（視覚障害者向け朗読会）との連携事業

鈴の音の紹介：「鈴の音」は、広報、週刊誌、一般図書及び雑誌をCDに収録し、音訳をすることにより、視覚障害を持つ人々との交流会を図り、社会連帯を深めることを目的とした音訳グループです。

本センターでの活動内容：鈴の音より井上蘭枝先生を招き、毎月1回、音訳に必要な知識を学びながら、読み方や声の出し方などの練習を行いました。

介護職員キャリアアップ講座

- ・ふたみシルバーケア豊寿園職員研修 11月28日（水）
- ・参加者：35名 職種：介護福祉士、看護師、社会福祉士、介護支援専門員
- ・講師：長谷川 恭子 研究員

ふたみシルバーケア豊寿園にて「認知症ケア研修会」を実施しました。前半はリアリティオリエンテーションについて、実践するうえでの問題点を探り、訓練のポイントや具体的な実践方法・話し方についてお伝えしました。後半は音楽療法で取り入れられているトンチャイムや指揮棒を使い、歌いながら鳴らすことや歌いながらリズムを刻むことを体感し、脳への刺激となる目的をお伝えしながら学びを深めていきました。職員の方々は皆さん意欲的に参加され、初めての体験に興味深く聴き入っていました。



高校生等を対象とした介護啓発事業～介護見学バスツアー

- ・8月8日（水）
- ・特別養護老人ホーム報徳園、GHかなしょうず園、デイサービスきらめきを見学しました。
- ・参加者：高校生4名、日本語学校留学生8名、本学学生6名 研究員5名

福祉施設との交流事業

- ・11月16日（金）3限目、4限目
- ・高田光寿園に出向き、高齢者と学生がレクリエーション等を通して交流しました。
- ・参加学生：介護福祉コース 2年生21名 研究員2名

本学での地域高齢者との交流

- ・11月30日（金）11:00～13:50
- ・2限目（2年生とレクリエーション交流）及び3限目（1年生「介護過程演習II」の授業を共に受講してグループワーク等）
- ・学生食堂にて昼食をとりながらの交流
- ・白子公民館利用地域高齢者18名、学生39名 福田研究員、中川研究員、長谷川研究員



学生ボランティアの組織化「ふれんど えいむ」登録者募集事業

本センターの事業（特に地域貢献）等にボランティアとして参加してくれる学生を募り、意識付けを図るため登録会員証（名刺サイズ）の発行を行いました。現在の会員数15名です。

- ・センター各事業アシスタント等 書類発送（11月13日実施）



学生に発行した登録会員証のフォーム

三重県文化会館（三重県文化振興事業団）との共同研究

- ・ 6月27日（水）4限目、5限目
- ・ 「介護に寄り添う演技」体験講座
- ・ 講師：菅原直樹氏（俳優、介護福祉士、四国学院大学非常勤講師）
- ・ 参加者：介護福祉コース 2年生21名



他団体との連携

- 第2回ほくせい☆地域福祉学習会開催 7月14日（土）
コーディネーター：千草 篤磨センター長、武藤 敦士研究員、
徳竹 夏海研究員、山本 啓介研究員参加 全体参加者90名
内容：①講演「我がこと・丸ごと・地域共生社会って何？」石倉 康次講師
②福祉現場（フロア）からの問題提起 ③地域課題をみんなで考えてみましょう
- 全国障害者問題研究会東海北陸ブロック研究集会2018 in MIE 実行委員会7回開催
実行委員：千草 篤磨センター長、武藤 敦士研究員、長谷川 恭子研究員（各回参加）
- 《公開講座》平成31年2月16日（土）
講師：小淵 隆司氏 北海道教育大学准教授
テーマ：「子どもの障害と発達相談」
参加者：120名
《実践講座》
講師：金子 直由氏
NPO 法人南勢子どもの発達支援センター えがお理事長
テーマ：「発達障害のある子の楽しいイキイキたいそう」
参加者：50名
《文化行事》
マリアバンド有志による歌と演奏 参加者：50名
- 分科会開催 平成31年2月17日（日）
保育あり（事前申し込み） 参加者：50名



その他

鈴鹿市との包括連携協定

本学は津市・松阪市との協定に引き続き、新たに鈴鹿市と連携協力協定を締結し、平成31年3月27日（水）に鈴鹿市役所で協定締結式を行いました。

今回の協定の趣旨は、鈴鹿市と高田短期大学が、子育て支援の充実及び教育・保育の人材育成等に関し、密接な連携・協力を図り、相互の発展に資することを目的としています。

今後実施予定の事業は次のとおりです。

- ① 鈴鹿市子ども政策部及び本学が開催する研修講座に対し、相互に講師を派遣します。
- ② 本学卒業生且つ鈴鹿市内勤務の保育士、幼稚園教諭等が本学にて就職講座講師を行います。
- ③ 教育委員会が開催する研修講座に本学が講師を支援します。
- ④ 鈴鹿市内の中学校のキャリア教育の一環として本学から講師を派遣します。
- ⑤ 本学子ども学科教員と鈴鹿市公立私立の保育・幼稚園長が毎年定期的に協議会を開催し、今後の保育・幼稚園教育に係るあり方等について研究・協議を行います。



施設設備の整備事業の実績

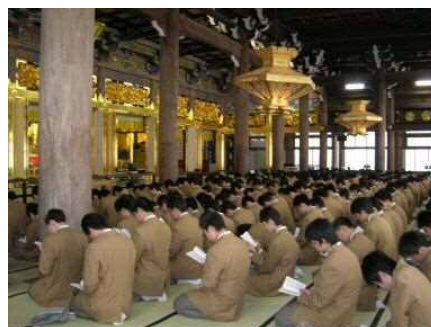
体育館屋根防水工事	
<p> 施工業者 : 日本土建 (株) 施工費用 : 14,364,000円 施工時期 : 平成30年8・9月 </p>	
1号館屋上防水工事	
<p> 施工業者 : (株) 鴻池組 施工費用 : 8,964,000円 施工時期 : 平成30年8・9月 </p>	
学内無線アクセスポイント設置工事	
<p> 施工業者 : (株) システムテクノ 施工費用 : 2,978,640円 施工時期 : 平成30年9月 </p>	
3号館プレゼンテーション室 プロジェクター設置工事	
<p> 施工業者 : (株) 中部システムセンター 施工費用 : 403,380円 施工時期 : 平成30年6月 </p>	
3号館情報演習室Ⅰ 無線アクセスポイント設置工事	
<p> 施工業者 : (株) システムテクノ 施工費用 : 321,408円 施工時期 : 平成30年4月 </p>	
教員研究室 PC 更新	
<p> 施工業者 : デル (株) 施工費用 : 525,444円 施工時期 : 平成30年8月 </p>	
総合案内サイン	
<p> 施工業者 : 鴻池組 施工費用 : 3,726,466円 施工時期 : 平成31年3月 </p>	

命の大切さを考える教育の推進

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」を校訓として、仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨に努め、広い視野から社会貢献できる人材の養成を目指した教育を行っています。

月1回の本山参詣や週1時限の一般仏教の授業において自他ともにかげがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し支え合って生きる重要さに気づかせています。特にいじめの未然防止といじめを許さない、いじめをさせないことなどを視野に入れて、行事や授業に反映させています。いじめ・体罰・ハラスメントについては、学期毎にアンケート調査を実施しています。

また、本山参詣で仏教講話を聴聞することを通して、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながると考えています。これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方を涵養しています。



人権教育研修の推進

本校では、生徒たちには「うわさや偏見に流されず真実を確かめ自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ことを目標として人権教育を実施しています。さらに、毎年秋の校外宿泊学習へ参加する学年においては、人権問題に関わるコースを組み入れており、事前学習の成果を文化祭で発表します。その他の学年も人権サークルで検討されたアンケートを実施し、結果を文化祭で展示発表しています。このように中高それぞれ普段の生活において人権を意識することを念頭において活動しています。

教職員に対しては、本年も県の人権教育課や人権センター主催の研修会へ積極参加することにより、人権意識の向上に努めるとともに、学苑本部主催の夏期研修において、人権講演会を実施しています。今年度は、「ハラスメントのない職場作りのために～男女共同参画の視点から～」と題した講演を「フレンテみえ」の服部亜龍氏より拝聴し、ハラスメントに対する認識を新たにしました。

また、毎年教職員のフィールドワーク（毎年20数名の参加）を実施し、人権問題について積極的に取り組んでいる地域、組織に向いて、直接体感することで感じ得たことを自ら再認識し、生徒への教育の一環として還元しています。

人権は人任せにするものではなく、一人ひとりが意識し、行動することが大切です。今後も地域や家庭と連携を取りながら着実に進めていきたいと考えています。



(8月27日京都市東山区にて)

キャリア教育の推進

生徒が育つ社会環境の変化は生徒たちの心身の発達にも影響を与えています。加えて産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、生徒たち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしています。こうした状況下で、変化に恐れず、社会に対応していく力を育てることが不可欠となってきました。

生徒が未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協働して学ぶことを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を得ることで、生涯にわたり学び続ける意欲を維持する基盤を作り出せるものと考えています。

社会体験等の校外活動は、他者の存在の意義を認識し、向社会性を高めたり、社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなると考えられています。その基本に基づき、本校は、ほとんどの生徒が進学を希望している関係上、進路情報の豊富な企業や大学と連携し、自己研鑽の一助としています。

また、今年度より、高校1年生では「主体的な探求活動」と題して、県内および愛知県の大学、企業の協力のもと、17の分野において探求活動を行い、そこでの学びを通して自己の将来を考える機会とする取り組みを始めました。

進路・職業観を考える学習会等

	鈴鹿医療科学大学連携講座	進路ガイダンス
対象	高1・II・III年	高II・III年
実施日	5月21日(月)	7月6日(金)
内容	薬学・看護・医療技術学部関係者による医療系学部の現状説明	大学・短大・専門学校の個別相談会



4年生 校外宿泊学習(7月29日(日)から31日(火)までキャリア学習の一環として、 東京の企業・大学で研修を実施)

上述のキャリア教育の方針に基づく取り組みとして、夏季休業中を利用し、4年生を対象に東京キャリア宿泊学習を実施しました。

本年度で8年目となる体験型キャリア学習で、生徒は、自ら相手先へ出向き、実際に社会で活躍している方々の話を聞くなどして、自分自身が求める将来像について、より一層理解を深めるべく活動しました。



1日目は、東京大学本郷キャンパスを訪問し、本校OB・OGの東大生たちの案内でクラスごとに安田講堂や図書館などを見学しました。夜には、JSBN(日本社会人ネットワーク)によるキャリア教育出張授業を開催し、代表の真坂淳氏よりグローバルな時代を生き抜くために本当に必要な知識や考え方をお話いただき、社会人・学生の方々とディスカッションをして、自分の思いを

発表する時間を持ちました。2日目は、企業・大学キャンパス先で研修を行いました。夜は、OB・OG生によるグループ別の座談会を行い、職種・年代の異なる方から仕事のやりがいについての話を行い、3日目は国会議事堂内を見学しました。大学や企業でお世話になった先輩諸氏は勿論、このために貴重な時間をさいて対応してくださった各企業の皆さんの協力なしにはできないものであり、社会で活躍する方々の姿を見て自分の将来像を考えることを目標としています。生徒達には積極的に研修に取り組む様子が見られ、教室ではできない経験を積み、学習のモチベーションを上げる良い機会となりました。



きめ細やかな学習指導の推進

本校では、生徒の進度や達成度に応じた指導を行うとともに、生徒の学力および特質に応じたコース・クラス編成を考慮しながらその指導に努めています。

通常の綿密な計画に基づいた授業は勿論のこと、小テスト、補講、夏期講習といった普段では取り組みにくい授業を実施したり、考査後の個別懇談などを行い、進路実現のためのサポートを実施しています。さらに、夏季休業中においては、各学年で創意工夫されたセミナーを実施し、苦手な分野の克服に努めており、生徒も有意義な時間を過ごしています。

また、学習以外の面で、不登校や精神的な悩みを抱える生徒の増加が見られますが、本校においては教育支援委員会、生徒指導部、各学年、スクールソーシャルワーカー、保健室、カウンセラーと連携して保護者や生徒の負担を少しでも軽減できるように努め、心身のケアに取り組んでいます。

生徒全体が楽しく充実した学校生活が送れるよう、きめ細かく生徒の実情を把握し、今後も親切丁寧な繰り返し学習や習熟度に応じた個別指導を行うことにより、学習意欲と実力向上に努めていきます。

ICT教育とアクティブラーニング対策

情報設備のリニューアル・増設による教育環境の充実

今年度から高1・4年生にクラウド型学習支援サービスの「Classi」を導入し、生徒の学習時間の管理や、宿題の配信、Webテストなどに活用しています。生徒自身が種々の活動内容を入力することで、活動記録が蓄積されていきますので、「eポートフォリオ」として大学入試に役立てることも想定しています。



また、Googleが提供するクラウド型の統合アプリケーション「G Suite for Education」を導入し、クラス・部活動でのスケジュールや情報の共有、オフィスソフトの利用、プレゼンテーション作成の共同作業などに活用しています。生徒はこれらを、スマホあるいは自宅のパソコンで利用しますが、より有効に利用できるようにするために、公的補助金を得ながらつぎの設備更新を図りました。生徒はスマホ、タブレット、パソコンなどを、必要に応じて利用できるようになっています。

1. シンクライアントシステムの導入について

〇A・I C両教室の各クライアントPCを円滑に管理するため、シンクライアントサーバを導入しました。これにより、デスクトップを仮想化し、さまざまな用途や状況によって使い分けられるので、①欲しい情報を円滑に使うことができる。②パソコン端末にかかるデータ処理の負担を小さくすることができる。③端末側にデータを持たないため、情報漏えいのリスクを回避することができる。④立ち上げの高速化や端末の環境復元などにより、待ち時間を短縮することができる。⑤OS、アプリケーション、データはサーバ側で一元の管理できる。⑥管理の一元化により、クライアント端末毎のセキュリティ管理作業やアップデートが不要となるため、管理者の負担を軽減できる。などのメリットがあり、授業準備の手間の軽減やスピーディな運用など学習指導の改善が期待できます。生徒の成果物等のデータ量が増加するため、サーバも拡充しました。

2. 〇A教室のデスクトップPCおよび教育支援システムの更新

〇A教室のパソコンは、平成24年度より使用しており、機器の老朽化による故障が目立つようになり、立ち上がりの速度も遅いため、ストレスなく使用に耐えうる最新機器に入れ替えました。

また、各パソコンを一括してコントロールするための教育支援システムについてもスムーズな操作性を確保するため、シンクライアント対応型に変更しました。



3. I C教室のノートパソコンの記憶装置の入れ替えとOSバージョンアップならびに教育支援システムの導入および大型モニター設置とプロジェクター更新

I C教室のノートパソコンのOSのバージョンアップに加えて、記憶装置をハードディスクからフラッシュメモリを使用したSSDに変更するとともに、I C教室にも新たに教育支援システムを導入し、〇A教室同様の体制とすることで、効率よくスムーズな授業を展開することができます。こうしたことで「オンライン英会話」による授業も可能となりました。

また、I C教室のプロジェクターは導入して10年が経ち、画面が暗く、見づらいなどの状況を抜本的に解決し、さらなる教育効果を上げるため、机の配置を変更するとともに教室の両側に大型モニター4台を設置しました。これにより、どの席からでも鮮明な映像を見ることができ、授業改善につなげることができると考えます。

4. 生徒用ノートパソコンの増設

アクティブラーニングの展開には少なくとも100台が必要であるとの考えから、パソコン教室以外でもIT機器を用いた多様な授業等ができるよう校内で持ち運びのできるWindows版ノートパソコンとGoogle Chrome版ノートパソコン各50台を増設しました。

5. 選択教室へ電子黒板設置

授業の質向上のため、授業環境を合わせるべく、昨年度各普通教室に導入した電子黒板と同様の機器を選択教室（6室）にも設置しました。

6. Wi-Fi環境のインフラ整備

情報設備の改善事業と平行してインターネット回線およびアクセスポイントを増設するなどインフラを再構築し、校舎内のどこでもネットワークに接続できるよう学校全体にWi-Fi環境を整備しました。

こうした学習環境の整備により、生徒一人ひとりが学習活動の中でより身近にITを活用し、情

報活用の実践力を養うとともに、情報に対する科学的な見方、考え方を培い、自らの生き方や在り方を構築していく中で、現代の情報化社会に対応できる能力を身につけるよう教育していきたいと考えています。

大学等との連携事業

学習・進学意欲の向上、各分野への興味・関心の深化を目的として、各学年・コースで、三重大学や鳥羽水族館との連携事業を実施しました。

勢水丸乗船などの校内では実施することが難しい実験・実習の体験、大学教授による専門的な講義の受講、大学生・大学院生との交流は、参加した生徒の知的好奇心や創造力を育み、幅広い興味・関心を持って積極的に学習に取り組む姿勢を身につけさせていると確信しています。



部活動の推進

部活動は、学年や学級を超えて共通の興味と関心を追求する中で体力や技術の向上はもとより、マナーやルールを守る社会性を身につけ、自らの意思で参加するという自主性を養い、活動を通して個性の伸長を図ることを目的とする教育活動の一つであります。

平成30年現在のクラブ活動所属生徒数			
高等学校	文化部	22部	576名 (男173名・女403名)
	運動部	18部	638名 (男385名・女253名)
	生徒会直属部、同好会、愛好会	8部	116名 (男30名・女86名)
	計		1,330名
中学校	文化部	8部	183名 (男84名・女99名)
	運動部	11部	392名 (男211名・女181名)
	生徒会直属部、同好会、愛好会	8部	34名 (男10名・女24名)
	計		609名

集団活動の中で協力することを学び、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、部活動の楽しさや喜びを感じ、学校生活に豊かさをもたらすだけでなく、生涯にわたってスポーツ・文化・芸術・科学に親しむ豊かな人間性を培うことを目指し、継続的に取り組んでいます。

中学生においては人間形成をするうえで重要な時期であるため、継続し続けることに関して部顧問と密接に連携し、自分を律し他人を思いやることや社会のルールを学ぶ一助としています。

主な活動実績はつぎのとおりです。

活動実績		
高等学校		
運動部	インターハイ	馬術・卓球・なぎなた・柔道・新体操
	国民体育大会出場	馬術・卓球・なぎなた
	その他東海大会出場	水泳・陸上競技・剣道・バレーボール女子
	三重県総合体育大会	女子全日製の部総合5位
文化部	全国大会出場	放送・文芸・漫画アニメ・科学部電気班・書道・写真

その他	河村菜々子（第12回国際地学オリンピックタイ大会（8月8日～17日、38か国、139人参加）で銀メダル）（県内初選出） メダルから推定される国別順位ではアメリカに次ぎ2位
-----	------------------------------------------------------------------------------------------

中学校		
運動部	全国大会出場	柔道・陸上競技
文化部	全国大会出場	放送




防災教育・危機管理教育の取り組み

火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業を展開しています。

本年度も昨年度同様、地域住民、自治体および消防署等の関係団体との連携のもと、合同防災訓練を実施し、生徒は避難介助や煙トンネル体験、起震車による地震体験、バケツリレーによる消火活動、津波を想定した高所への避難など体験型訓練を実施しました。



避難訓練	8月31日（金）実施	
目的	地震発生時における避難場所、避難経路の確認 地域住民の実態を把握する 本校と地域住民の連携による避難誘導	
要領	想定状況：震度5弱および大津波警報発令	
訓練内容	避難の実働訓練 地震発生による身の安全確保、 および地域住民の避難誘導・避難介助 その他、協力団体による非常食等の試食体験、 津市職員による地域住民への災害に関する講習	

危機管理の取り組みとしては、学内機密情報の保護のため、パソコンや端末記憶装置の持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩およびウイルス等の感染がないように、周知徹底を図っているほか、インターネット上での誹謗中傷等の書き込みなどにも傾注しています。

また、今年度ブロック塀の安全点検を実施し、建築基準を満たしていない箇所（東グラウンド北側・本山テニスコート隣地駐輪場西側）の改修工事を実施しました。

保護者への連絡手段としては、「あんしんネット」、「きずなネット」等により、最新情報を随時的確に提供しています。



学校安全・生活指導、保健計画の推進

学校安全管理の立場から道路交通法改正に伴う交通ルールの遵守、自転車の安全点検校内安全点検などを実施するとともに、最近自転車が絡む交通事故が多発していることから、津自動車学校へ講師を依頼し、4月13日（金）と4月25日（水）に新入生に対して自転車交通安全講習を実施しました。

約900名の生徒が自転車通学をしており、学校周辺は狭い道路や見通しの悪い交差点が多いこともあり、事故を起こさないよう基本的なルールや事故の悲惨さを訴え、知識や技術の向上に努めるとともに生徒と教員が街頭登下校指導をするなど、マナーアップや安全意識の高揚にも傾注しています。このほか社会生活面において、4月10日（火）には携帯電話・スマートフォンの使用マナーやネットワークにつながることの利便性、SNSの危険性に関する「スマホ携帯安全教室」を、7月12日（木）には「薬の正しい使い方」と題して、学校薬剤師の秦賢司先生による薬物乱用防止教室を開催しました。

また、18才より選挙権が与えられたことにより、高校3年生および6年生を対象に、主権者としての自覚と選挙への意識の高揚を図っています。

学校保健に関しては、校医健診や他の各種検査を通じ、生徒個々の健康状態を把握し常に健康管理に努めるとともに、保健だよりを毎月発行しその時期の内容に合った啓発に努めています。新たな感染症が発生した場合などの緊急対策や予防教育の推進についても積極的に取り組んでいます。



国際交流事業

- 目的**
- 国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し、友好を深めること。
 - 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。
 - 受け入れ家庭が、生徒とともに学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。

オーストラリア交換留学生受け入れ

期 間	9月16日（日）～9月27日（木）		
受入校	パレード校	6名(男6名)	引率教員2名
	セント モニカズ校	21名(男9名・女12名)	引率教員2名



本校の授業に参加したり、生徒の家庭にホームステイすることにより異文化を体験し、さらに、日本を象徴する伊勢・京都・大阪への訪問を通して、日本の素晴らしさに一層興味を抱いてもらうことで、国際交流の意義が深められたものと考えられます。



オーストラリア交換留学生訪問			
期 間	平成31年3月15日(金)～29日(金)		
訪問校	パレード校	11名(男11名・女0名)	引率教員2名
	セント モニカズ校	22名(男8名・女14名)	引率教員2名



留学先では、各家庭にホームステイすることにより異文化を肌で感じ、家族や生徒との会話を通して自分の英語能力を試す機会にもなっています。また、こうした体験で視野が広がり、国際感覚を養ううえで貴重な経験となっています。

語学研修

第5回イギリス語学研修	
期 間	7月13日(金)～7月30日(月)
人 数	30名 引率教員1名



イギリスギルフォードにある語学学校のインターナショナルクラスにおける、他国生徒とともに学ぶ英語学習を主眼に置いた研修プログラムに参加し、中学3年生・高校生の短期語学研修を実施しました。生徒たちは、事前ワークショップにおいて「間違いを恐れずやってみる」という姿勢が大切であるということを経験し、本事業に参加しました。



この研修の対象者は英語に関心が深く、英語学習に意欲的に取り組んでいる生徒の中から選抜された生徒が参加しており、出国前のレベル試験を受けて海外での語学研修(ロンドンなどへの校外学習も含む)後もレベルアップの程度を見る試験を受けています。さらに、ホームステイにより英語の運用能力の向上や英語学習へのより一層の動機付けを促し、学習意欲を育むだけでなく、他国の生徒との交流が国際人としての感覚を養うこととなりました。

イングリッシュ・キャンプ	
期 間	8月22日(水)・23日(木)
人 数	29名



高田本山宗務院の会議室において、本校ALT4人とゲストALT4人を講師として、特別選抜クラスの生徒を対象に、オールイングリッシュによる「イングリッシュ・キャンプ」を実施しました。2日目は、台風の影響で午前中までの活動となりましたが、保護者の方にも参観していただく中で、一学期間生徒が準備してきた学習成果のプレゼンテーションを行うなど2日間を通して、生徒は英語への関心を深め、話す力を高めることができました。

英語科特別顧問 横山カズ氏による特別指導

昨年度に引き続きJAL等の大手企業で同時通訳者として活躍されている横山カズ氏に英語科特別顧問をお願いいたしました。昨年度の成果を踏まえ、今年度は大幅に回数を増やし、より充実し講座を実施しました。

エンパワーメントプログラム

12月25日（火）～27日（木）の3日間に4、5年生の21名が参加し、英語によるコミュニケーション力の向上及び自己分析と自己啓発を目的としたエンパワーメントプログラムが実施されました。東京大学や名古屋大学、オーストラリア・クイーンズランド大学などに在籍する外国人留学生をリーダーとして5～6名のグループを作り、各グループにおいてリーダーに必要な要素や自分のアイデンティティなどについて思考し、グループ毎に意見を共有しました。プログラム中の会話や説明はすべて英語で行われ、最初はファシリテーター（司会者）や外国人留学生の言葉が理解できず戸惑ったり、意見を思うように表現できないもどかしさも見受けられましたが、最終日には全員がそれぞれの将来の夢と3日間で得たものについて発表することができました。



教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中部私学研修、中堅研修など）

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で学校教育に対する期待に応えるには、教員の資質能力向上とスキルアップが必要なため、それに対応できうる教員研修を推進していきます。

多種多様な資質能力を持つ人材の集まりである教員集団が連携することにより充実した教育活動が展開できることから、その能力の保持のためにも研修は重要と考えられます。

研修については、これまでの自分自身の教育活動を振り返るとともに、教育界の最新情報を理解して将来への課題を自覚し、これからのリーダーシップを発揮するためのものです。

本校のほとんどの生徒が大学進学を希望している関係上、大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学によって毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべく把握に努めています。

また、公立中学校へ出向いて本校の模擬授業を実施するという事は、本校教員の資質を問われる関係上、普段以上の緊張感で接し、より自分自身の研究も必要となり、教員としての資質向上につながっていくものと考えられます。

平成30年度 初任者研修 年間計画表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所
1	初任研OR	6月15日（金） 15:40～16:30	鷲尾	4号館会議室
2	高田の歴史と建学の精神について	6月27日（水） 15:40～16:30	学校長	
3	学校法人の規定について	6月29日（金） 15:40～16:30	河北	
4	教職の実務 中・高の教務	7月11日（水） 15:10～16:00	谷口	
5	学校評価	9月 5日（水） 15:10～16:00	下村	
6	学校の危機管理	10月 3日（水） 15:40～16:00	大西	
7	人権推進教育	10月24日（水） 15:10～16:00	水野ヒ	
8	特別支援教育・カウンセリング	10月26日（金） 15:40～16:30	的場・ダイクス	
9	教育相談	10月31日（水） 15:10～16:00	大西	
10	生徒指導	11月 7日（水） 15:10～16:00	眞岡	
11	進路指導	11月16日（金） 15:40～16:30	古川	
12	コンプライアンス (服務規程と教育法規)	11月28日（水） 15:40～16:30	下村	

新規採用者は、採用年度に学校の教員としての適性を考える機会として、職務の遂行に必要な実践的指導力と使命感の修養ならびに幅広い知見の習得および教育指導の充実を図るための課題の解決等を目的に外部研修に参加し、モチベーションを高めています。さらに、本校においても独自に指導教員が生徒との接し方や指導方法、事務的内容を伝授し、教員として一日も早い自立を目的として、年間12回の研修を実施しており、終了後は受講についてのアンケートならびに校長や教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い、翌年度の実施計画案に役立てています。

また、中堅以上の教員についても、これからの学校をリードするための知識や能力を養うため、例年外部研修会に参加しているほか、ICT教育やアクティブラーニングに関する研究会へも積極的に参加しています。

今後も外部の講習会や研修会、出前授業に積極的に参加し、学校内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまで教員としての資質向上に役立てていきたいと考えています。

教職員海外研修

私学教職員海外研究派遣事業（私学協会枠）	
派遣教諭	国語科教諭（勤続30年） 1名
視察先	フランス
視察期間	8月5日（日）～8月11日（土）
視察 研究内容	パリ市内、ロワール、モンサンミッシェルを訪れ、その歴史と文化、フランス人の価値観に触れたことで、異なる角度から日本を見ることができました。グローバル化の加速する現代において、いかに日本文学や国語を生徒に教えるか、いかに日本文化について考えさせるか、いかに子どもたちを育てるか、学習指導要領が変わろうとしている今、そのヒントを得る機会となりました。



高田中・高等学校教職員海外研究派遣事業	
派遣教諭	養護教諭（勤続25年） 1名
視察先	イタリア
視察期間	8月15日（水）～8月23日（木）
視察 研究内容	国際化の進展する中で教育現場において、かねてから国際理解教育の重要性が唱えられている。教職に携わる者として、広い視野で異文化を理解し、尊重する態度を養い生徒に還元することを目的として、今回、歴史深いイタリアを訪問し様々な都市の文化や生活、歴史的背景を肌で感じることができました。この経験を今後の教育活動に活かしたいと思っています。



こうした研修内容については、職員会議等において報告を行い、他の教員と情報共有することで教員全体の意識向上を図っており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上につながっています。

学校自己点検・学校関係者評価

学校関係者評価委員会

自己評価や保護者、学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携協力により生徒の穏やかな成長を図り、健全な学校づくりを推進することを目的としています。

なお、評価委員は委員数9名（教育関係者、学識経験者、地元企業、地域自治会、保護者会）から成り立っています。

第1回	6月21日（木） 学校現況・学校自己評価について説明した後、各委員から意見をいただき、質疑応答形式で進められました。各委員からはICT教育やクラブ活動、交通安全指導などについて質問がありました。本校からは校長、教頭が出席し、各委員と協議事項について意見交換を行いました。
第2回	平成31年2月14日（木） 生徒指導・安全対策、生徒募集・進学状況等について意見交換を行い、授業アンケートに基づく教員の授業改善についてなどに対し意見をいただきました。平成30年度総括としては概ね良好な評価をいただきました。

学校自己評価

学校自己評価については、例年「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」という趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

平成30年度の目標

目指す学校像 （教育理念）	生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。 校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。 崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。 自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。
重点努力目標	人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識に則った行動力を育成する、学力の向上と充実錬磨に努める、環境を大切に、世界に貢献できる人材の育成に努める。

点検・評価の日程

平成30年 4月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
平成30年12月	評価項目の確認と評価方法の決定
2019年 3月末	評価実施
2019年 4月	集計と分析
2019年 5月	職員への結果の公表、評価結果の公表

授業アンケート

生徒がよい授業を受け、学力向上につなげるには、教員一人ひとりが授業改善に取り組む必要があります。教員自らが自分の授業を振り返り、自らの課題について分析できるよう生徒による授業アンケートを1学期末に実施し、各教員に詳細を知らせるとともに、保護者には概要を公表します。1学期末の結果は概ね好評価でした。

生徒募集活動

高田中・高等学校公開イベント

小学生を対象とした「学びのひろば in 高田」・中学校入試説明会

高田の魅力を深めるべく興味あるイベントに取り組み、いかにして生徒確保を行うか重要な問題となっている昨今、私立中学校の魅力を最大限に発揮し、その一貫としてより知っていただくために、小学生（4・5年生）を対象とした「学びのひろば in 高田」を年3回開催し、情報発信に努めています。

学びのひろば in 高田			
日時	8月26日（日）	10月28日（日）	平成31年2月11日（月・祝）
テーマ	① 英語であそぼう ② プラネタリウム～今夜の三重の空・世界の空～ ③ おもしろ社会科クイズ ④ 世界の国をめぐるQ	① 第9回たかだ算数オリンピック ② 部活動ってなに？～中学校の部活を体験しよう～	① たのしい理科実験 ② 古典の世界をのぞいてみよう ③ 親子で楽しむ算数マジック ④ Let's Cook!
定員	120名（197名参加）	250名（148名参加）	120名（171名参加）



また、受験生と保護者を対象とした中学入試説明会を9月24日（月、祝）に開催し、約350世帯・700名の参加がありました。この他、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展に出向いてピーアールに努めています。

高等学校公開イベント・学校見学会・個別見学会



高等学校に関しては、教員が各中学校を訪問し受験生と保護者に対し、入試やより充実した本校の教育内容について詳細に説明しています。

各中学校訪問の他に学校見学会が8月25日（土）に開催され、中学生・保護者計1433名が参加されました。さらに、より本

校を知りたい中学生・保護者を対象に10月20日(土)・11月17日(土)・12月15日(土)に個別見学会を開催しました。学校生活や授業内容およびクラブ活動について、スライドショーや卒業生との会話形式の説明、体感型のイベントなどで実際の本校の良さを理解していただけるようピーアールしています。運営に関しては、受付・案内係などのスタッフとして、165名の生徒が参加しており、生徒のキャリア教育の一環としても役立っています。

また、経済的に不安な家庭においても高等教育が安心して受けられるよう、国の就学支援金制度、県の減免制度に加え高田高等学校独自の助成金制度(教育充実費相当学助成)も充実させています。なお、対象基準は就学支援金加算制度に準じます。



施設整備の整備事業実績及び進捗状況

内 容	業 者	金 額	施工・納品時期
第3体育館新築工事	(株)鴻池組	863,987,892円	平成31年 3月完成
クラブハウス新築工事		49,257,367円	
駐輪場新築工事		17,149,045円	
歩廊新築工事		8,313,750円	
第3体育館備品	(有)ヨシダ運動具店 ほか	23,470,560円	平成31年 3月納品
1号館カーテン取替工事	かとう建装(株)	1,598,400円	4月 7日
プール施設等解体工事	(株)鴻池組	22,032,000円	5月 8日～ 6月 3日
校舎無線LAN工事	(株)システムテクノ リコージャパン(株)	18,310,000円	7月 7日～ 8月26日
OA・IC教室 ノートパソコン購入等	リコージャパン(株)	25,248,000円	7月21日～ 10月 6日
本山テニスコート隣地駐輪場西側 ブロック塀改修工事	(株)日本土建	615,600円	8月 1日～ 8月26日
東グラウンド第7・8駐輪場 防球ネット設置工事	サクラネット(有)	1,219,320円	8月10日～ 8月17日
軽トラック購入	三重ダイハツ販売(株)	981,286円	8月23日納車
東グラウンドバスケットコート・ ハンドボールコート補修工事	長谷川体育施設(株)	2,376,000円	8月12日～ 8月16日
台風12号・21号による駐輪場 屋根破損等の修理工事	(株)鴻池組	6,955,200円	10月～ 11月施工
インターネットに係る フィルタリング装置入替	(株)システムテクノ	2,937,600円	10月～ 11月設置
新JIS規格 生徒用机・椅子等入替(中1・2)	愛知(株)	7,896,960円	平成31年 3月納品

第3体育館（外観）



第3体育館（内観）



クラブハウス



歩廊と駐輪場



○A教室



I C教室



軽トラック



ブロック塀改修



生徒用机・椅子



財務の概要

資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は52億1,600万円となり、前年度の決算額と比較し8億3,500万円の増額となりました。

平成30年度 資金収支計算書総括

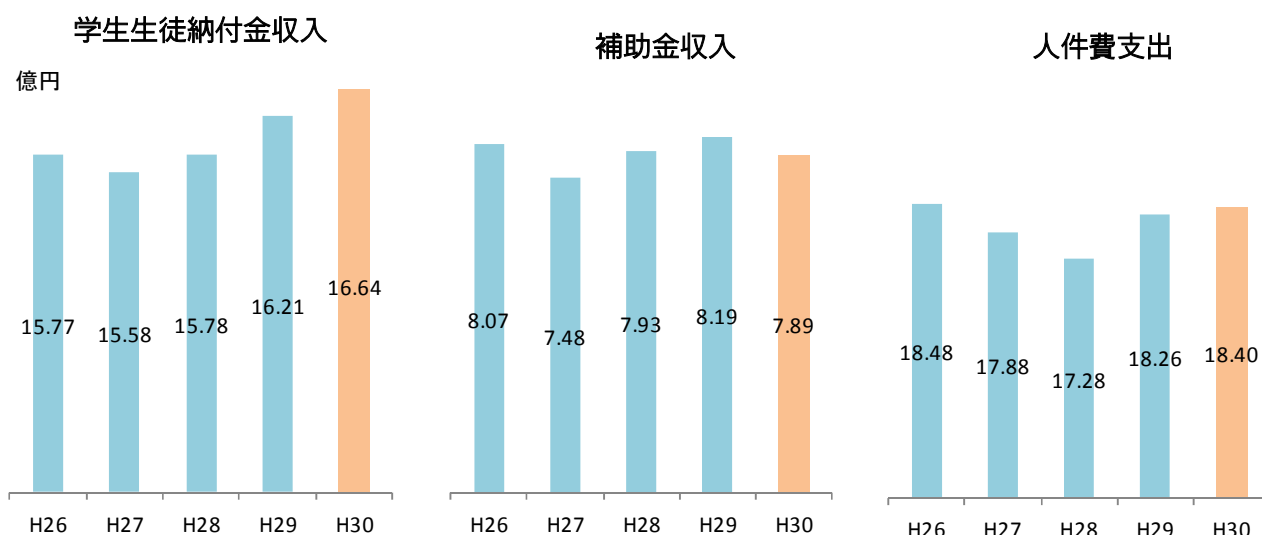
(単位：千円)

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,664,256	43,391	人件費支出	1,840,508	14,539
手数料収入	52,502	▼258	教育研究経費支出	410,411	94,582
寄付金収入	9,195	▼92	管理経費支出	90,250	7,532
補助金収入	789,685	▼29,409	借入金等利息支出	428	428
資産売却収入	79	▼10,140	借入金等返済支出	200,000	200,000
付随事業・収益事業収入	17,988	1,130	施設関係支出	946,671	887,469
受取利息・配当金収入	12,824	1,163	設備関係支出	38,626	▼18,807
雑収入	121,720	19,354	資産運用支出	323,660	▼398,200
借入金等収入	600,000	600,000	その他の支出	1,156,274	104,669
前受金収入	286,588	▼30,905	資金支出調整勘定	△540,862	▼475,320
その他の収入	1,740,392	231,466			
資金収入調整勘定	△410,329	5,447			
当年度収入合計	4,884,900	831,147	当年度支出合計	4,465,966	416,891
前年度繰越支払資金	331,759	4,678	翌年度繰越支払資金	750,693	418,933
収入の部合計	5,216,659	835,825	支出の部合計	5,216,659	835,825

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。

前年比は平成29年度決算との比較です。

主要科目の推移



平成30年度 資金収支計算書（短期大学）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	465,215	2,228	人件費支出	406,809	7,369
手数料収入	8,308	▼ 686	教育研究経費支出	152,013	32,319
寄付金収入	1,000	200	管理経費支出	32,686	5,415
補助金収入	102,911	▼ 23,005	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	17,988	1,130	施設関係支出	6,572	6,062
受取利息・配当金収入	2	▼ 0	設備関係支出	3,786	▼ 21,713
雑収入	11,296	▼ 885	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	221,611	70,120
前受金収入	49,443	▼ 6,355	資金支出調整勘定	△ 15,947	19,036
その他の収入	196,845	6,584			
資金収入調整勘定	△ 58,303	7,096			
当年度収入合計	794,705	▼ 13,695	当年度支出合計	807,530	118,608
前年度繰越支払資金	116,592	42,636	翌年度繰越支払資金	69,340	▼ 47,252
収入の部合計	911,297	28,941	支出の部合計	876,870	71,356

平成30年度 資金収支計算書（中・高等学校）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,199,041	41,164	人件費支出	1,422,657	7,597
手数料収入	44,194	428	教育研究経費支出	258,398	62,263
寄付金収入	4,195	9	管理経費支出	36,398	1,405
補助金収入	686,774	▼ 6,404	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	79	79	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	施設関係支出	940,099	884,006
受取利息・配当金収入	2	0	設備関係支出	34,840	3,677
雑収入	110,073	20,226	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	765,541	41,456
前受金収入	237,145	▼ 24,550	資金支出調整勘定	△ 518,898	▼ 493,012
その他の収入	834,307	130,214			
資金収入調整勘定	△ 352,026	▼ 1,649			
当年度収入合計	2,763,784	159,517	当年度支出合計	2,939,036	507,392
前年度繰越支払資金	150,051	▼ 56,038	翌年度繰越支払資金	188,361	38,311
収入の部合計	2,913,835	103,479	支出の部合計	3,127,397	545,703

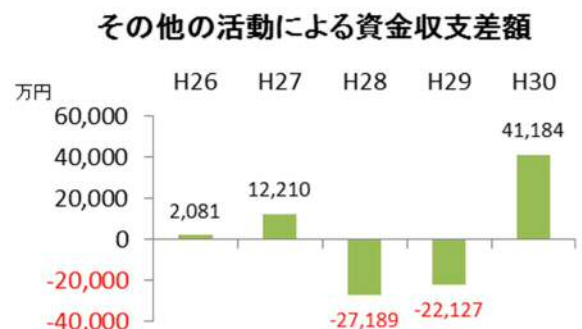
活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書では、資金収支計算書の決算額を「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにします。

平成30年度 活動区分資金収支計算書

(単位:千円)

科 目		決算額	前年比	科 目		決算額	前年比
教育活動による資金収支	収入			その他の活動による資金収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	1,664,256	43,391		有価証券売却収入	0	▼ 10,219
	手数料収入	52,502	▼ 258		有価証券償還収入	0	0
	特別寄付金収入	0	0		借入金等収入	600,000	600,000
	一般寄付金収入	9,195	▼ 92		預り金受入収入	849,511	66,694
	経常費等補助金収入	765,375	▼ 26,145		仮払金回収収入	33,211	8,387
	付随事業収入	17,988	1,130		立替金回収収入	37,015	▼ 1,219
	雑収入	121,720	19,354		修学旅行費預り資産取崩収入	67,905	3,104
	教育活動資金収入計	2,631,036	37,380		修学旅行費預り金受入収入	73,887	8,565
	支出				卒業諸費預り資産取崩収入	15,018	▼ 886
人件費支出	1,840,508	14,539	卒業諸費預り金受入収入	13,939	▼ 2,127		
教育研究経費支出	410,411	94,582	小計	1,690,486	672,298		
管理経費支出	90,250	7,532	受取利息・配当金収入	12,824	1,163		
教育活動資金支出計	2,341,169	116,653	その他の活動資金収入計	1,703,310	673,461		
差引	289,866	▼ 79,273	支出				
調整勘定等	△ 21,436	8,303	借入金等返済支出	200,000	200,000		
教育活動資金収支差額	268,431	▼ 70,970	有価証券購入支出	0	▼ 250,000		
施設設備等活動による資金収支	収入			預り金支払支出	849,593	70,918	
	施設設備補助金収入	24,310	▼ 3,264	仮払金支払支出	33,211	8,387	
	施設設備売却収入	79	79	立替金支払支出	37,001	6,520	
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	200,000	200,000	修学旅行費預り資産繰入支出	73,887	8,565	
	施設設備拡充引当特定資産取崩収入	345,173	▼ 104,827	修学旅行費預り金支払支出	67,905	3,104	
	施設設備等活動資金収入計	569,562	91,988	卒業諸費預り資産繰入支出	13,951	▼ 2,125	
	施設関係支出	946,671	887,469	卒業諸費預り金支払支出	15,006	▼ 898	
	設備関係支出	38,626	▼ 18,807	長期前払金支払支出	482	▼ 4,556	
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	0	▼ 200,000	小計	1,291,037	39,914	
	施設設備拡充引当特定資産繰入支出	323,660	51,800	借入金等利息支出	428	428	
施設設備等活動資金支出計	1,308,957	720,462	その他の活動資金支出計	1,291,464	40,342		
差引	△ 739,395	▼ 628,474	差引	411,846	633,119		
調整勘定等	478,052	480,580	調整勘定等	0	0		
施設設備等活動資金収支差額	△ 261,343	▼ 147,894	その他の活動資金収支差額	411,846	633,119		
小 計	7,088	▼ 218,864	支払資金の増減額	418,933	6		
			前年度繰越収支資金	331,759	4,678		
			翌年度繰越支払資金	750,693	418,933		

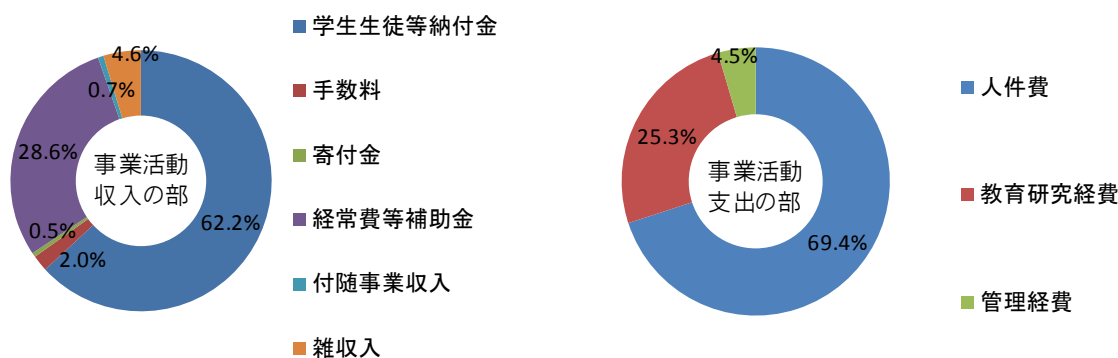


事業活動収支計算書の概要

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外とに分けて把握することができます。

(単位：千円)

科 目		決算額	%	科 目		決算額	%
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,664,256	62.2%	特別収入	資産売却差額	79	0.0%
	手数料	52,502	2.0%		その他の特別収入	24,310	0.9%
	寄付金	14,230	0.5%		本部負担金収入	0	0.0%
	経常費等補助金	765,375	28.6%		特別収入計	24,389	0.9%
	付随事業収入	17,988	0.7%		資産処分差額	22,372	0.8%
	雑収入	122,610	4.6%	その他の特別支出	0	0.0%	
	教育活動収入計	2,636,960	98.6%	本部負担金	0	0.0%	
	事業活動支出の部	人件費	1,840,938	69.4%	特別支出計	22,372	0.8%
	教育研究経費	671,122	25.3%	特別収支差額	2,017		
	管理経費	119,481	4.5%	〔予備費〕			
徴収不能額等	0	0.0%	基本金組入前当年度収支差額	19,832			
教育活動支出計	2,631,540	99.1%	基本金組入額合計	△ 209,609			
教育活動収支差額	5,419		当年度収支差額	△ 189,777			
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	12,824	0.5%	前年度繰越収支差額	△ 4,151,199		
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	基本金取崩額	0		
	教育活動外収入計	12,824	0.5%	翌年度繰越収支差額	△ 4,340,976		
	借入金等利息	428	0.0%				
	その他の教育活動外支出	0	0.0%				
教育活動外支出計	428	0.0%	(参考)				
教育活動外収支差額	12,396		事業活動収入計	2,674,172			
経常収支差額	17,815		事業活動支出計	2,654,340			



基本金について

基本金には第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

第1号基本金	施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、本年度の組入額は2億960万円でした。主な内訳は、第3体育館及びクラブハウス等の取得によるものです。
第2号基本金	施設設備を取得するため事前に組入れる金額で、本年度は平成29年度に組入れた2億円を第1号基本金へ振替えました。
第3号基本金	教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額であり、今年度は妥当性の検証の結果、妥当と判断されるため、組入・取崩共に行っていません。

短期大学

事業活動収支計算書

(単位：千円)

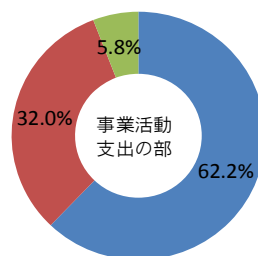
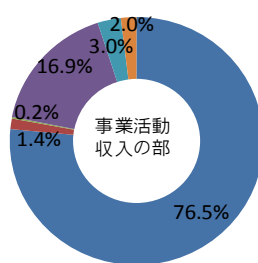
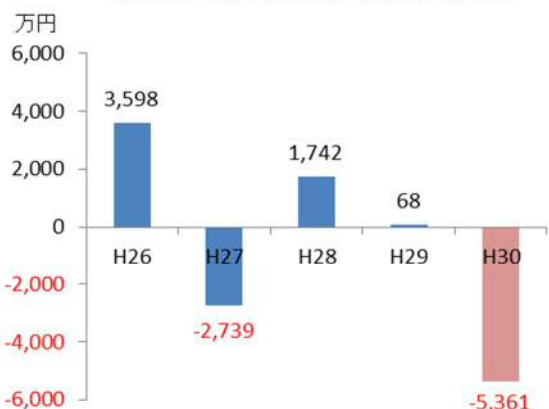
科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比
教育活動収入の部	事業活動収入の部	465,215	76.5%	2,228	特別収支	収入の部	0	0.0%	0
	学生生徒等納付金	8,308	1.4%	▼ 686		資産売却差額	0	0.0%	0
	手数料	1,132	0.2%	▼ 1,776		その他の特別収入	0	0.0%	0
	寄付金	102,911	16.9%	▼ 23,005		本部負担金収入	0	0.0%	0
	経常費等補助金	17,988	3.0%	1,130		特別収入計	0	0.0%	0
	付随事業収入	12,185	2.0%	▼ 71		支出の部	310	0.0%	19
	雑収入	607,739	100.0%	▼ 22,181		資産処分差額	0	0.0%	0
	教育活動収入計	411,270	62.2%	8,268		その他の特別支出	0	0.0%	0
	事業活動支出の部	211,791	32.0%	19,859		本部負担金	0	0.0%	0
	人件費	38,285	5.8%	3,981		特別支出計	310	0.0%	19
教育研究経費	0	0.0%	0	特別収支差額	△ 310		▼ 19		
管理経費	661,346	100.0%	32,109	〔予備費〕			0		
徴収不能額等	△ 53,606		▼ 54,289	基本金組入前当年度収支差額	△ 53,914		▼ 54,308		
教育活動支出計				基本金組入額合計	△ 25,118		▼ 15,777		
教育活動収支差額				当年度収支差額	△ 79,032		▼ 70,085		
教育活動外収入の部	収入の部	2	0.0%	▼ 0	前年度繰越収支差額	△ 2,370,381		▼ 8,947	
	受取利息・配当金	0	0.0%	0	基本金取崩額	0		0	
	その他の教育活動外収入	2	0.0%	▼ 0	翌年度繰越収支差額	△ 2,449,413		▼ 79,032	
	教育活動外収入計	0	0.0%	0					
教育活動外支出の部	支出の部	0	0.0%	0					
	借入金等利息	0	0.0%	0					
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0					
教育活動外支出計	0	0.0%	0						
教育活動外収支差額	2		▼ 0	事業活動収入計	607,742		▼ 22,181		
経常収支差額	△ 53,604		▼ 54,290	事業活動支出計	661,655		32,127		

財務比率推移表 (事業活動収支関係)

比 率	H28	H29	H30	全国平均	比 率	H28	H29	H30	全国平均
人件費率	63.9	64.0	67.7	61.0	学生生徒等納付金比率	69.8	73.5	76.5	77.3
依存費率	91.5	87.0	88.4	78.9	経常寄付金率	0.6	0.5	0.2	0.7
教育研究経費率	27.1	30.5	34.8	32.3	経常補助金率	19.7	20.0	16.9	13.5
管理経費率	6.4	5.4	6.3	9.8	減価償却額率	11.0	12.4	9.8	12.3
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.1	経常収支差額率	2.7	0.1	△ 8.8	△ 3.4
事業活動収支差額比率	2.7	0.1	△ 8.9	△ 3.5	教育活動収支差額比率	2.7	0.1	△ 8.8	△ 4.5
基本金組入後収支比率	96.1	101.4	113.6	112.0					

全国平均は前年度の値

教育活動収支差額の推移



中・高等学校

事業活動収支計算書

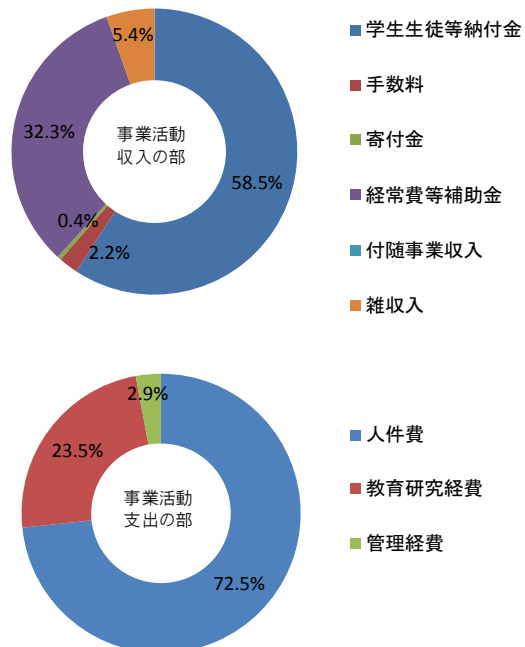
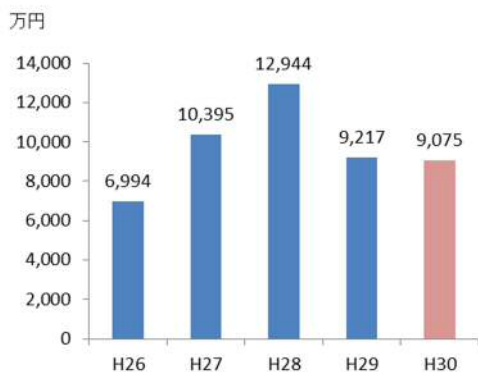
(単位：千円)

科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,199,041	58.5%	41,164	特別収入支	資産売却差額	79	0.0%	79	
	手数料	44,194	2.2%	428		収入の部	その他の特別収入	24,310	1.2%	▼ 3,264
	寄付金	9,098	0.4%	4,797		本部負担金収入	0	0.0%	0	
	経常費等補助金	662,464	32.3%	▼ 3,140		特別収入計	24,389	1.2%	▼ 3,185	
	付随事業収入	0	0.0%	0		支出の部	資産処分差額	22,063	1.1%	22,063
	雑収入	110,073	5.4%	20,226		その他の特別支出	0	0.0%	0	
	教育活動収入計	2,024,869	98.8%	63,475		本部負担金	0	0.0%	0	
	特別収入計	24,389	1.2%	▼ 3,185		特別支出計	22,063	1.1%	22,063	
	特別収入支差額	2,326		▼ 25,248		〔予備費〕	0		0	
	事業活動収入の部	1,418,627	72.5%	551		基本金組入前当年度収支差額	93,081		▼ 26,660	
教育研究経費	459,331	23.5%	63,835	基本金組入額合計	△ 183,331		▼ 95,961			
管理経費	56,159	2.9%	502	当年度収支差額	△ 90,250		▼ 122,621			
徴収不能額等	0	0.0%	0	前年度繰越収支差額	268,367		32,371			
教育活動支出計	1,934,117	98.9%	64,888	基本金取崩額	0		0			
教育活動収支差額	90,752		▼ 1,413	翌年度繰越収支差額	178,117		▼ 90,250			
収入の部	受取利息・配当金	2	0.0%	0	事業活動収入計	2,049,260		60,291		
事業活動	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	事業活動支出計	1,956,180		86,951		
教育活動外収入計	2	0.0%	0	経常収支差額	90,754		▼ 1,412			
支出の部	借入金等利息	0	0.0%	0						
事業活動	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0						
教育活動外支出計	0	0.0%	0							
教育活動外収支差額	2		0							

財務比率推移表（事業活動収支関係）

比 率	H28	H29	H30	全国平均	比 率	H28	H29	H30	全国平均
人件費率	70.3	72.3	70.1	64.2	学生生徒等納付金比率	60.6	59.0	59.2	52.8
人件費依存率	116.1	122.5	118.3	121.7	経常寄付金率	0.2	0.2	0.4	1.5
教育研究経費率	19.8	20.2	22.7	28.1	経常補助金率	35.9	33.9	32.7	37.5
管理経費率	2.9	2.8	2.8	5.8	減価償却額率	12.5	11.7	11.4	10.4
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.3	経常収支差額率	7.0	4.7	4.5	1.6
事業活動収支差額比率	7.0	6.0	4.5	3	教育活動収支差額比率	7.0	4.7	4.5	1.2
基本金組入後収支比率	104.6	98.3	104.8	107	全国平均は前年度の値				

教育活動収支差額の推移



平成30年度補助金一覧表

(単位：千円)

補助金名	当年度 ①	前年度 ②	差異 ①－②
短期大学補助金 合計	102,911	125,916	△ 23,005
国庫補助金 計	102,828	121,333	△ 18,505
私立大学等経常費補助金	102,828	121,333	△ 18,505
地方公共団体補助金 計	83	4,583	△ 4,500
結核健康診断予防接種費補助金	83	83	△ 0
高等教育機関魅力向上支援補助金	0	4,500	△ 4,500
中・高等学校補助金 合計	686,774	688,677	△ 1,904
高等学校補助金 計	530,163	536,076	△ 5,914
国庫補助金 計	18,365	17,460	905
私立大学等研究設備整備費等補助金（IT）	9,479	6,573	2,906
私立学校施設整備費補助金（体育諸施設）	8,886	10,887	△ 2,001
地方公共団体補助金 計	511,798	518,617	△ 6,819
私立高等学校等振興補助金	504,811	511,758	△ 6,947
授業料減免補助金	1,444	1,403	42
入学金補助金	1,283	1,283	0
人権教育推進事業費補助金（人権教育推進事業）	234	192	42
結核健康診断予防接種費補助金	210	202	8
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	300	300	0
私立高等学校振興補助金（津市）	2,698	2,638	60
私立高等学校振興補助金（鈴鹿市）	270	382	△ 112
国際交流事業補助金（津市）	100	100	0
スポーツ奨励補助金（津市）	150	61	89
中学校補助金 計	156,611	152,601	4,010
国庫補助金 計	5,945	5,614	331
私立大学等研究設備整備費等補助金（IT）	2,983	1,985	998
私立学校施設整備費補助金（体育諸施設）	2,962	3,629	△ 667
地方公共団体補助金 計	150,666	146,987	3,679
私立高等学校等振興補助金	150,570	146,881	3,689
人権教育推進事業費補助金（人権教育推進事業）	96	106	△ 10
総 計	789,685	814,594	△ 24,909

貸借対照表の概要

貸借対照表は、平成31年3月31日現在の財政状態を示しています。

平成30年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	8,630,259	8,172,382	457,877
有形固定資産	7,001,998	6,320,625	681,373
土地	1,025,123	1,025,123	0
建物	4,674,606	4,015,891	658,714
構築物	896,009	881,183	14,826
教育研究用機器備品	137,687	123,892	13,795
管理用機器備品	8,992	11,191	△ 2,199
図書	225,685	223,584	2,102
車輛	3,976	7,243	△ 3,267
学苑林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	0	2,599	△ 2,599
特定資産	1,530,597	1,752,110	△ 221,513
退職給与引当特定資産	312,490	312,490	0
施設設備拡充引当特定資産	1,218,107	1,239,620	△ 21,513
第2号基本金引当特定資産	0	200,000	△ 200,000
その他の固定資産	97,664	99,647	△ 1,983
借地権	2,258	2,258	0
電話加入権	1,286	1,286	0
施設利用権	427	498	△ 71
ソフトウェア	972	1,396	△ 424
有価証券	80,070	80,070	0
差し入れ保証金	350	350	0
長期前払金	12,301	13,789	△ 1,488
流動資産	939,230	529,795	409,436
現金預金	750,693	331,759	418,933
未収入金	92,836	104,733	△ 11,897
前払金	274	2,776	△ 2,502
立替金	30,499	30,513	△ 14
修学旅行費預り資産	59,028	53,046	5,982
卒業諸費預り資産	5,900	6,967	△ 1,067
資産の部合計	9,569,489	8,702,177	867,313
固定負債	449,063	248,633	200,430
長期借入金	200,000	0	200,000
退職給与引当金	249,063	248,633	430
流動負債	1,118,489	471,438	647,051
短期借入金	200,000	0	200,000
未払金	538,086	64,964	473,123
前受金	286,588	317,493	△ 30,905
預り金	28,886	28,968	△ 82
修学旅行費預り金	59,028	53,046	5,982
卒業諸費預り金	5,900	6,967	△ 1,067
負債の部合計	1,567,553	720,072	847,481
基本金	12,342,913	12,133,304	209,609
第1号基本金	12,170,913	11,761,304	409,609
第2号基本金	0	200,000	△ 200,000
第4号基本金	172,000	172,000	0
繰越収支差額	△ 4,340,976	△ 4,151,199	△ 189,777
翌年度繰越収支差額	△ 4,340,976	△ 4,151,199	△ 189,777
純資産の部合計	8,001,937	7,982,105	19,832
負債及び純資産の部合計	9,569,489	8,702,177	867,313

注記 1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 120,732,155円 の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 998,336,564円 から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2) その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当無し

3. 減価償却額の累計額の合計額 **5,685,174,379円**

4. 徴収不能引当金の合計額 **0円**

5. 担保に供されている資産の種類及び額 **0円**

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額 **491,282,712円**

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度(平成31年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	480,070,136	504,737,767	24,667,631
(うち満期保有目的の債券)	(149,679,462)	(150,777,527)	(1,098,065)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	390,000,000	353,964,171	△36,035,829
(うち満期保有目的の債券)	(390,000,000)	(353,964,171)	(△36,035,829)
合 計	870,070,136	858,701,938	△11,368,198
(うち満期保有目的の債券)	(539,679,462)	(504,741,698)	(△34,937,764)
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	870,070,136	-	-

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度(平成31年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	590,000,000	570,169,300	△19,830,700
株 式	40,390,674	55,366,240	14,975,566
投資信託	239,679,462	233,166,398	△6,513,064
貸付信託	-	-	-
その他	-	-	-
合 計	870,070,136	858,701,938	△11,368,198
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	870,070,136	-	-

財務比率推移表

(単位：%)

比 率	H28	H29	H30	全国平均	評	算式 (×100)	説 明
固 定 資 産 率	94.4	93.9	90.2	84.7	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
有 形 固 定 資 産 率	75.9	72.6	73.2	60.6	▼	$\frac{\text{有 形 固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているか
特 定 資 産 率	17.4	20.1	16.0	18.9	△	$\frac{\text{特 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	長期に亘って特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況はどうか
流 動 資 産 率	5.6	6.1	9.8	15.3	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
固 定 負 債 率	2.8	2.9	4.7	6.4	▼	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	長期的な負債構成のバランスと比重はどうか
流 動 負 債 率	5.2	5.4	11.7	5.3	▼	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	短期的な負債構成のバランスと比重はどうか
内 部 留 保 率	14.2	16.6	8.3	25.0	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	特定資産と有価証券と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合はどうか
運 用 資 産 率	77.1	82.8	69.3	1.7	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{外 部 負 債}}{\text{経 常 支 出}}$	一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているか
純 資 産 率	92.0	91.7	83.6	88.3	△	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	純資産の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
繰 越 収 支 差 額 率	△ 46.1	△ 47.7	△ 45.4	△ 16.2	△	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	繰越収支差額の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
固 定 比 率	102.6	102.4	107.9	95.9	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	土地・建物等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか
固 定 長 期 適 合 率	99.6	99.3	102.1	89.4	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}}$	自己資金のほか長期借入金で固定資産を取得する原則にどの程度適合しているか
流 動 比 率	107.5	112.4	84.0	288.9	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	1年以内に償還する流動負債に対して1年以内に現金化が可能な流動資産はどの程度用意されているか
総 負 債 比 率	8.0	8.3	16.4	11.7	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	純資産に対する他人資金の比重はどうか
負 債 比 率	8.7	9.0	19.6	13.3	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{純 資 産}}$	他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないか
前 受 金 率	105.2	104.5	261.9	496.4	△	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	翌年度分の入学金等が現金預金の形で適切に保有されているか
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 保 有 率	129.1	125.7	125.5	58.3	△	$\frac{\text{退 職 給 与 引 当 特 定 資 産}}{\text{退 職 給 与 引 当 金}}$	退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか
基 本 金 比 率	99.9	103.0	97.5	97.2	△	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合はどうか
減 価 償 却 比 率	45.5	47.9	49.1	52.7	～	$\frac{\text{減 価 償 却 累 計 額 (図 書 除 却)}}{\text{減 価 償 却 資 産 取 得 価 額 (〃)}}$	減価償却累計額が取得価格に対してどの程度占めているか
積 立 率	34.9	36.4	39.8	74.5	△	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}}$	持続的かつ安定的な経営を継続するために必要な運用資産の保有状況はどうか

評価指標 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない

全国平均は前年度の値

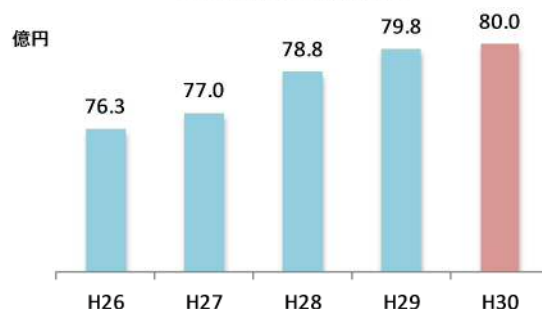
財産目録

(単位：千円)

一、資産総額	9,569,489
内 1. 基本財産	6,973,051
2. 運用財産	2,596,439
二、負債総額	1,567,553
三、正味財産	8,001,937

項目	数量	金額
(一) 資産		9,569,489
1. 基本財産		6,973,051
(ア) 土地	102,865.92 ㎡	1,025,123
(イ) 建物	41,560.74 ㎡	4,674,606
(ウ) 構築物	221 点	896,009
(エ) 図書	101,799 冊	225,685
(オ) 教育研究用機器備品	19,585 点	137,687
(カ) 管理用機器備品	180 点	8,992
(キ) 車輜	8 台	3,976
(ク) ソフトウェア	3 本	972
(ケ) 建設仮勘定		0
2. 運用財産		2,596,439
(ア) 現金及び預金		750,693
(イ) 修学旅行費預り資産		59,028
(ウ) 卒業諸費預り資産		5,900
(エ) 未収入金		92,836
(オ) 借地権	1 点	2,258
(カ) 電話加入権	15 基	1,286
(キ) 施設利用権	3 点	427
(ク) 差し入れ保証金		350
(ケ) 有価証券	29,832,179.00 株	80,070
(コ) 土地	61,913.00 ㎡	29,919
(サ) 退職給与引当特定資産		312,490
(シ) 施設設備拡充引当特定資産		1,218,107
(ス) 第2号基本基金引当特定資産		0
(セ) 長期前払金		12,301
(ソ) 前払金		274
(タ) 立替金		30,499
(二) 負債		1,567,553
1. 固定負債		449,063
(ア) 長期借入金		200,000
(イ) 退職給与引当金		249,063
2. 流動負債		1,118,489
(ア) 短期借入金		200,000
(イ) 未払金		538,086
(ウ) 前受金		286,588
(エ) 預り金		93,815
(1) 職員源泉等預り金		28,886
(2) 修学旅行費預り金		59,028
(3) 卒業諸費預り金		5,900

正味財産の推移



平成 30 年度 事業報告書

学校法人 高田学苑

令和元年 6月発行

学校法人 高田学苑 学苑本部

〒514-0125

三重県津市大里窪田町字下沢2865番地の1

TEL 059-231-0367 FAX 059-231-0370

